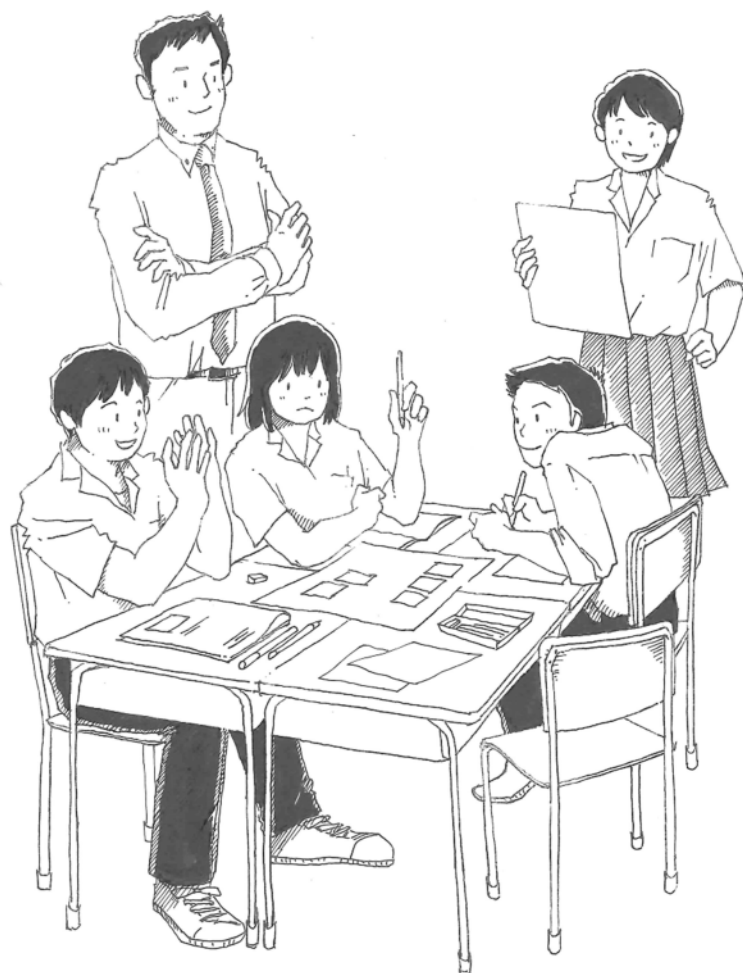


令和4年度 島根県初任者研修

教育センター研修における 「授業づくり」の研修 ハンドブック



島根県教育センター
島根県教育センター浜田教育センター

目次

はじめに	1
授業力向上のイメージ図	2
経験年数に応じた研修（教育センター研修）において大切にしたい「授業力」の視点	3
初任者研修における「授業づくり」の研修のねらい	4
初任者研修教育センター研修「授業づくり」の研修の流れ	5
「授業づくり1」の進め方について	9
初任者研修における「授業力に関する自己診断シート」の活用について	11
授業力に関する自己診断シート	12
「授業づくり3」の研修で扱う模擬授業について	14
模擬授業学習指導案（略案）様式	15
模擬授業・協議の進め方について	16
「授業づくり4」の研修について	18
フォローアップ研修（2年目）『「課題研究」レポート』作成のためのリーフレット	21
フォローアップ研修（2年目）課題研究構想シート	23
学習指導案の役割と書き方・考え方（基本型）	24
基本型のサンプル指導案（小学校・算数）から見た書き方のポイント	30
基本型のサンプル指導案（中学校・理科）から見た書き方のポイント	33
基本型のサンプル指導案（高等学校・家庭基礎）から見た主な書き方のポイント	36
基本型のサンプル指導案（生活単元学習）から見た主な書き方のポイント	40
学習指導案の見方・記入のポイントチェックリスト	47
生活単元学習指導案の見方・記入のポイントチェックリスト	48
おわりに	49

はじめに

子どもたちのよりよい成長のために、私たちが成長する！

「どうして教員になったのですか。」と聞かれたら皆さんはどのように答えますか。

子どもたちに生き生きと人生を歩んでほしい。誰もが願っていることです。

そのような子どもたちの将来を実現するために、私たちは日々教育を行っています。

よい教師の条件として「子どもが好き、教えることが好き、学ぶことが好き」と話す人がいます。子どもたちのためにしっかり教えるんだという思いがあること、そのために学び続けていこうという向上心があることです。

また、子どもたちにとっての教師の存在意義は、自分をよりよい成長に導いてくれることにあります。愛情をもって教えてくれる先生や自分たちのことをしっかり考えてくれる先生との出会いを期待しています。

私たちは、その期待に応えられるように努力していかなければなりません。

言葉で言うのは簡単ですが、実際に指導を行ったり、自己研鑽したりすることは簡単ではなく、日々の忙しさの中では難しさを感じる人が多いのが現実です。

ただ、忙しい日々の中ですが、走り続けていると見えないものもたくさんあります。少し立ち止まり研修できるこの機会をプラスにとらえて、子どもたちの成長につながる授業力を一緒に身に付けていきましょう。



授業力向上のイメージ図

教科等でめざす資質・能力の育成
「主体的・対話的で深い学び」の実現

教育センター研修

カリキュラム・マネジメントを意識し、
教科等の目標に迫る授業

めざす授業づくり

中堅教諭等
資質向上研修

児童生徒等の実態を踏まえ、
単元（題材）の目標に迫る授業

児童生徒を主体とし、
本時の目標に迫る授業

6年目研修

授業について振り返る力
校内研修（OJT）

自己研修

初任研

授業力の4つの構成要素
「情熱・使命感」「構想力」「生徒理解力」「指導力」

経験年数に応じた研修（教育センター研修）において大切にしたい「授業力」の視点

◆教育センター研修における「授業力」の四つの構成要素の解釈

「情熱・使命感」

児童生徒等のよりよい成長を願って、周囲と協働しながら自らの資質向上を図っていく姿勢

「構想力」

指導のねらいを明確にするとともに教材を研究し、見直しをもって授業を計画・創造、改善していく力

「生徒理解力」

集団の中で個の可能性を引き出すために、児童生徒等一人一人の実態・特性を理解する力

「指導力」

学び合う集団づくりに努め、専門的な指導技術をもとに授業の目標の達成に向けて授業を実践する力

◆経験年数に応じた研修において大切にしたい授業力の視点

(下線(1本線)は特に意識して欲しいこと、下線(2本線)は目指す授業)

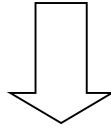
	初任者研修	6年目研修	中堅教諭等資質向上研修
「授業づくり」に	<u>児童生徒を主体とし、本時の目標に迫る授業ができる。</u>	<u>児童生徒等の実態を踏まえ、単元(題材)の目標に迫る授業ができる。</u>	<u>カリキュラム・マネジメントを意識し、教科等の目標に迫る授業ができる。</u>
指導と評価の一体化 ～授業改善につなげる～			
指導のねらい	● 本時のねらいを明確にする。	・ 本時のねらいを明確にする。 ● 単元(題材)を通して付けたい力を明確にする。	・ 本時のねらいを明確にする。 ・ 単元(題材)を通して付けたい力を明確にする。 ● 教科等の指導内容の系統性や関連性を考慮する。
構想力及び生徒理解力	● 本時の授業に児童生徒が主体的に学ぶ場を設定する。	・ 本時の授業に児童生徒等が主体的に学ぶ場を設定する。 ● 児童生徒等の思考の流れを大切に単元(題材)計画等を構成する。	・ 本時の授業に児童生徒等が主体的に学ぶ場を設定する。 ・ 児童生徒等の思考の流れを大切に単元(題材)計画等を構成する。 ● カリキュラム・マネジメントを意識し、教科等の見方・考え方を働かせ、教科等がめざす資質・能力を育成する授業を行う。 ● 指導すべき課題を明確にし、子どもが主体的に取り組める授業を行う。(自立活動)
学習評価	・ 学習評価の意義を理解するとともに、本時の目標に準拠した評価をする。	● 単元(題材)の目標と単元(題材)の評価規準を見通しながら、評価の場面や方法を工夫する。	● 教科等の目標と単元(題材)計画等を見通しながら、評価の場面や方法を工夫する。
指導力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学び合う集団づくりに努める(学習規律、安心して学習できる場) ・ 指導技術を高める(発問、言葉かけ、板書、教材・教具、学習形態等) 		
使情熱感・	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な価値観を尊重する ・ 新しい教育情報等を進んで得ようとする ・ 他者から学ぶ(同僚、管理職、保護者・地域、児童生徒等から) 		

初任者研修における「授業づくり」のキーワードは

「本時のねらいが明確な授業」「児童生徒を主体とした授業」

☆初任者研修における「授業づくり」の研修のねらい

児童生徒を主体とし、本時の目標に迫る授業ができる。



☆「なぜそのような授業をめざすのか」

- 基本的な指導力として、単元計画に基づいた本時の目標（どのような資質・能力を付けたいか）と指導のねらい（どのような姿をめざして発問や支援を行うのか（意図））を明確にし、学習過程を組み立てることが求められているから。
- 教科書の内容を教え込むことに終始する授業ではなく、児童生徒が主体的に学習に取り組む一連の学習活動の中で資質・能力を育むことができる授業を構想することが求められているから。

☆「初任者研修でめざす授業のイメージ」

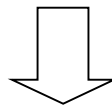
本時計画（本時のねらいを明確にし、児童生徒を主体とした指導方法等を工夫している）



<手立て>

- ・指導のねらいの明確化と「めあて」の提示方法の工夫
- ・児童生徒が「問い」を見いだす学習活動の工夫
- ・目標に迫るための児童生徒を主体とした本時の計画や指導方法
- ・各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせることができる学習過程の工夫
- ・評価方法の工夫 等

評価（目標に準拠した評価をしている）



初任者研修をとおしてめざす姿

1年後には、

『本時のねらいが明確な授業』『児童生徒を主体とした授業』のためには、〇〇が大切だ。」

「目標に迫るために、児童生徒を主体とした指導方法を〇〇のように工夫しよう。」

などのように、自分の言葉で語るができる。

初任者研修教育センター研修（小学校）「授業づくり」の研修の流れ

第Ⅰ回教育センター研修

○講義

- ・研修の流れについて。
- ・「授業づくり」のねらいと視点について。
- ・「授業力に関する自己診断シート」について。

○協議

- ・4～5月の授業実践について「これまでの実践を振り返るシート①」に記入する。
- ・今後の課題について。



研修の2つの視点「本時のねらいが明確な授業」「児童生徒を主体とした授業」を踏まえ、日々の授業や校内における見学研・実践研・その他研で研修する。

第Ⅱ回教育センター研修

○教科等指導

国語、算数、選択教科①（音楽・図画工作・体育・家庭より選択）、選択教科等②（社会・理科・生活・各教科等を合わせた指導・自立活動より選択）

○島根大学教育学部附属義務教育学校の授業参観・研究協議



第Ⅲ回教育センター研修（7・8月に所属の教育事務所ごとに実施）

○模擬授業（P14～17参照）

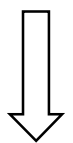
○協議

- ・「本時のねらいが明確な授業」と「児童を主体とした授業」のために大切にしたい学習活動や教師の手立てについて。
- ・1学期に実践した授業について「授業力に関する自己診断シート」の第Ⅲ回の欄に記入する。
- ・今後の具体的な実践について。

○外国語教育

○特別活動

○道徳教育



研修の2つの視点「本時のねらいが明確な授業」「児童生徒を主体とした授業」を踏まえた自分の課題を、2学期の授業で具体的な実践をとおして改善するとともに、学校訪問指導を受ける。（学校訪問指導を3学期に実施する学校もある。）

第Ⅴ回教育センター研修

○総合的な学習の時間

○講義

- ・資質・能力を育む授業づくりについて。
- ・ICTの活用、家庭学習の充実について。
- ・フォローアップ研修について。

○演習

- ・資質・能力を育成するための授業について「授業づくりシート」に記入する。
- ・9～1月の授業実践について「これまでの実践を振り返るシート②」に記入する。
- ・2学期に実践した授業について「授業力に関する自己診断シート」の第Ⅴ回の欄に記入する。
- ・フォローアップ研修「課題研究」の研究主題設定について。

※それぞれの研修項目の目的と内容については、『令和4年度島根県新任教職員研修実施要項』のP30～31を参照すること。

初任者研修教育センター研修（中学校）「授業づくり」の研修の流れ

第Ⅰ回教育センター研修

○講義

- ・研修の流れについて。
- ・「授業づくり」のねらいと視点について。
- ・「授業力に関する自己診断シート」について。

○協議

- ・4～5月の授業実践について「これまでの実践を振り返るシート①」に記入する。
- ・今後の課題について。



研修の2つの視点「本時のねらいが明確な授業」「児童生徒を主体とした授業」を踏まえ、日々の授業や校内における見学研・実践研・その他研で研修する。

第Ⅱ回教育センター研修

○道徳教育

○特別活動

○島根大学教育学部附属義務教育学校の授業参観・研究協議



第Ⅲ回教育センター研修

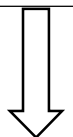
○模擬授業（P 14～17参照）

○協議

- ・「本時のねらいが明確な授業」と「生徒を主体とした授業」のために大切にしたい学習活動や教師の手立てについて。
- ・1学期に実践した授業について「授業力に関する自己診断シート」の第Ⅲ回の欄に記入する。
- ・今後の具体的な実践について。

○授業づくり（教科別）

- ・各教科の目標と内容。
- ・学習指導案作成の意義。
- ・各教科における「本時のねらいが明確な授業」「生徒を主体とした授業」の実際。
- ・これまでの成果と課題を踏まえた授業改善について。



研修の2つの視点「本時のねらいが明確な授業」「児童生徒を主体とした授業」を踏まえた自分の課題を、2学期の授業で具体的な実践をとおして改善するとともに、学校訪問指導を受ける。（学校訪問指導を3学期に実施する学校もある。）

第Ⅴ回教育センター研修

○総合的な学習の時間

○講義

- ・資質・能力を育む授業づくりについて。
- ・ICTの活用、家庭学習の充実について。
- ・フォローアップ研修について。

○演習

- ・資質・能力を育成するための授業について「授業づくりシート」に記入する。
- ・9～1月の授業実践について「これまでの実践を振り返るシート②」に記入する。
- ・2学期に実践した授業について「授業力に関する自己診断シート」の第Ⅴ回の欄に記入する。
- ・フォローアップ研修「課題研究」の研究主題設定について。

※それぞれの研修項目の目的と内容については、『令和4年度島根県新任教職員研修実施要項のP30～31を参照すること。』

初任者研修教育センター研修（高等学校）「授業づくり」の研修の流れ

第Ⅰ回教育センター研修

○講義

- ・研修の流れについて。
- ・「授業づくり」のねらいと視点について。
- ・「授業力に関する自己診断シート」について。

○協議

- ・4～5月の授業実践について「これまでの実践を振り返るシート①」に記入する。
- ・今後の課題について。



研修の2つの視点「本時のねらいが明確な授業」「児童生徒を主体とした授業」を踏まえ、日々の授業や校内における見学研・実践研・その他研で研修する。

第Ⅱ回教育センター研修

○道徳教育

○特別活動

○授業づくりの視点

- ・学習指導案作成の基本的理解。

○島根大学教育学部附属義務教育学校の授業参観・研究協議



第Ⅲ回教育センター研修

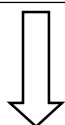
○模擬授業（P 14～17参照）

○協議

- ・「本時のねらいが明確な授業」と「生徒を主体とした授業」のために大切にしたい学習活動や教師の手立てについて。
- ・1学期に実践した授業について「授業力に関する自己診断シート」の第Ⅲ回の欄に記入する。
- ・今後の具体的な実践について。

○授業づくり（教科別）

- ・各教科の目標と内容。
- ・学習指導案作成の意義。
- ・各教科における「本時のねらいが明確な授業」「生徒を主体とした授業」の実際。
- ・これまでの成果と課題を踏まえた授業改善について。



研修の2つの視点「本時のねらいが明確な授業」「児童生徒を主体とした授業」を踏まえた自分の課題を、2学期の授業で具体的な実践をとおして改善するとともに、学校訪問指導を受ける。（学校訪問指導を3学期に実施する学校もある。）

第Ⅴ回教育センター研修

○総合的な探究の時間

○講義

- ・資質・能力を育む授業づくりについて。
- ・ICTの活用、家庭学習の充実について。
- ・フォローアップ研修について。

○演習

- ・資質・能力を育成するための授業について、「授業づくりシート」に記入する。
- ・9～1月の授業実践について「これまでの実践を振り返るシート②」に記入する。
- ・2学期に実践した授業について「授業力に関する自己診断シート」の第Ⅴ回の欄に記入する。
- ・フォローアップ研修「課題研究」の研究主題設定について。

※それぞれの研修項目の目的と内容については、『令和4年度島根県新任教職員研修実施要項』のP30～31を参照すること。

初任者研修教育センター研修（特別支援学校）「授業づくり」の研修の流れ

第Ⅰ回教育センター研修

○講義

- ・研修の流れについて。
- ・「授業づくり」のねらいと視点について。
- ・「授業力に関する自己診断シート」について。

○協議

- ・4～5月の授業実践について「これまでの実践を振り返るシート①」に記入する。
- ・今後の課題について。



研修の2つの視点「本時のねらいが明確な授業」「児童生徒を主体とした授業」を踏まえ、日々の授業や校内における見学研・実践研・その他研で研修する。

第Ⅱ回教育センター研修

○道徳教育

○子どもの見方・とらえ方

○教科指導（音楽・図画工作・美術・体育・家庭より選択）

○特別活動

○島根大学教育学部附属義務教育学校の授業参観・研究協議



第Ⅲ回教育センター研修

○模擬授業（P 14～17参照）

○協議

- ・「本時のねらいが明確な授業」と「児童生徒を主体とした授業」のために大切にしたい学習活動や教師の手立てについて。
 - ・1学期に実践した授業について「授業力に関する自己診断シート」の第Ⅲ回の欄に記入する。
 - ・今後の具体的な実践について。
- #### ○各教科等を合わせた指導・自立活動
- ・各教科等を合わせた指導と自立活動の在り方について。
 - ・これまでの成果と課題を踏まえた授業改善について。



研修の2つの視点「本時のねらいが明確な授業」「児童生徒を主体とした授業」を踏まえた自分の課題を、2学期の授業で具体的な実践をとおして改善するとともに、学校訪問指導を受ける。（学校訪問指導を3学期に実施する学校もある。）

第Ⅴ回教育センター研修

○総合的な学習（探究）の時間

○講義

- ・資質・能力を育む授業づくりについて。
- ・ICTの活用、家庭学習の充実について。
- ・フォローアップ研修について。

○演習

- ・資質・能力を育成するための授業について、「授業づくりシート」に記入する。
- ・9～1月の授業実践について「これまでの実践を振り返るシート②」に記入する。
- ・2学期に実践した授業について「授業力に関する自己診断シート」の第Ⅴ回の欄に記入する。
- ・フォローアップ研修「課題研究」の研究主題設定について。

※それぞれの研修項目の目的と内容については、『令和4年度島根県新任教職員研修実施要項』のP30～31を参照すること。

「授業づくり1」の進め方について

- ◆講義・協議のテーマ **「本時のねらいが明確な授業」**
 「児童生徒を主体とした授業」

- ◆4～5月の授業実践について、授業づくりの2つの視点に絞って、「これまでの実践を振り返るシート①」に記入します。その後、グループに分かれて協議を行います。

＜「これまでの実践を振り返るシート」の記入について＞

- ① 「本時のねらいが明確な授業」「児童生徒を主体とした授業」とはどのような授業なのか、その授業を行うための具体的な手立てを整理します。
- ② 「本時のねらいが明確な授業」「児童生徒を主体とした授業」の2つの視点で4月～5月の授業実践を振り返り、「気になる点」や「良い点」を書き出します。「気になる点」についてはその原因及び改善に取り組みたいことについて考えます。

＜グループ協議について＞

- ① 司会者、全体協議の発表者を決めます。
- ② 一人ずつ、自分の「これまでの実践を振り返るシート①」に記入した内容について話します。「気になる点」の原因や、めざしたい授業になるための具体的な手立てについて、意見交換できるとよいでしょう。
- ③ めざしたい授業になるための具体的な手立てを「これまでの実践を振り返るシート①」に記入して整理します。

これまでの実践を振り返るシート①

名前 _____

本時のねらいが明確な授業	児童生徒を主体とした授業	その他
--------------	--------------	-----

気になる点

良い点

自分はこんな授業をめざしたい

そのための具体的手立て

気になる原因は何だと思えますか。特に改善に取り組みたい点は何ですか。

初任者研修における「授業力に関する自己診断シート」の活用について

1 活用の目的

客観的指標をもとに自分の授業を振り返り、継続的な授業改善を図る。

※ 自己の授業力に関する視点がどこに置かれ、強みや弱みがどこにあるか、自分と対話するためのシートです。間接的に管理職や他の教員、さらには児童生徒と対話できることもねらっています。授業力に対する評価シートではありません。

2 活用の手順

- (1) 第Ⅰ回教育センター研修で、初任者研修や経験者研修などの教育センター研修における「授業力」の構成要素の意味や、「授業づくり」のねらいを理解する。
- (2) 第Ⅲ回教育センター研修で、「第Ⅲ回」及び「A」～「D」に数値及び文章を入力することで、1学期の授業実践について振り返る。
- (3) 「D」で設定した自己課題を中心に、教育センター研修の「授業づくり」や「校内における研修（実践研等）」を通して授業改善に取り組む。
- (4) 第Ⅴ回教育センター研修で、「第Ⅴ回」及び「E」に数値及び文章を入力することで、2学期の授業実践について振り返る。
- (5) 「E」の内容を踏まえて、初任者研修のまとめをするとともに、フォローアップ研修の課題研究主題を設定していく。

上記のほか、日頃の校内における研修でも活用してください。定期的に自分の授業を振り返ったり、課題を設定したりすることができます。

授業力に関する自己診断シート（初任者研修用）

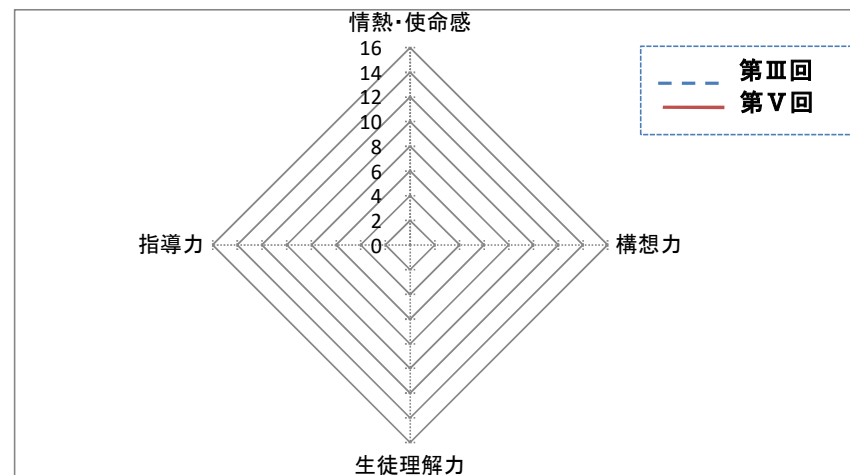
氏名	所属
----	----

このシートは、自己の授業力に関する視点がどこに置かれ、強みや弱みがどこにあるか、自分と対話するためのシートです。間接的に管理職や他の教員、さらには児童生徒と対話できることもねらっています。授業力に対する評価シートではありません。授業改善のための振り返りをするのが目的です。



- (到達基準)
- 4 とてもあてはまる
 - 3 おおむねあてはまる
 - 2 あまりあてはまらない
 - 1 ほとんどあてはまらない

授業力の構成要素と解釈	到達目標 (基本的な行動指針)	第Ⅲ回	第Ⅴ回
〔情熱・使命感〕 児童生徒のよりよい成長を願って、周囲と協働しながら自らの資質向上を図っていく姿勢	授業に関して自ら課題をもち、日々改善に努めている。		
	授業改善に役立てるために、他の教職員から学ぶようにしている。		
	新しい教育情報等を進んで得ようとしている。		
	多様な価値観を尊重する態度や幅広い視野・知識を身に付けようとしている。		
〔構想力〕 指導のねらいを明確にするとともに教材を研究し、見通しをもって授業を計画・創造、改善していく力	めざす児童生徒の姿を具体化し、学習指導要領に基づいた授業を実践している。		
	児童生徒の意識や思考の流れなどを見通した授業づくりをしている。		
	指導内容の系統性や関連性を考慮した授業づくりをしている。		
	指導と評価の一体化を図った授業づくりや授業改善をしている。		
〔生徒理解力〕 集団の中で個の可能性を引き出すために、児童生徒一人一人の実態・特性を理解する力	児童生徒一人一人や学習集団の実態、特性などを把握し、理解している。		
	児童生徒一人一人の実態に応じて、指導方法や学習形態を工夫している。		
	児童生徒一人一人が主体的に考えたり活動したりする場を設けている。		
	児童生徒の学習意欲等の向上のために、児童生徒一人一人の姿や変容をとらえている。		
〔指導力〕 学び合う集団づくりに努め、専門的な指導技術をもとに授業の目標の達成に向けて授業を実践する力	学習規律の確立や児童生徒が安心して学習できる場づくりや学習集団づくりをしている。		
	かわり合い、支え合う学習集団づくりをしている。		
	本時の目標が達成されるように、学習活動を組み立て、時間配分し授業を進めている。		
	本時の目標に向かって児童生徒が学習するための発問・説明・指示等の指導技術をもっている。		



A. 自己診断をみながら自己評価を書いてみましょう。

B. 校内における研修(実践研)等で言われることを書いてみましょう。

C. 授業評価等で児童生徒から授業に関して言われることを書いてみましょう。

D. 授業力の構成要素から1つ選び具体的に自己課題を設定してみましょう。

選んだ構成要素	
---------	--

E. 自己診断をみながら、2学期中に自己課題に向き合った感想とフォローアップ研修に向けての展望を書いてみましょう。

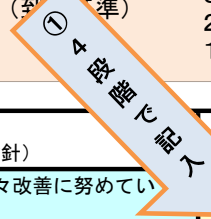
授業力に関する自己診断シート（初任者研修用）記入説明

氏名	所属
----	----

このシートは、自己の授業力に関する視点がどこに置かれ、強みや弱みがどこにあるか、自分と対話するためのシートです。間接的に管理職や他の教員、さらには児童生徒等と対話できることもねらっています。授業力に対する評価シートではありません。授業改善のための振り返りをするのが目的です。



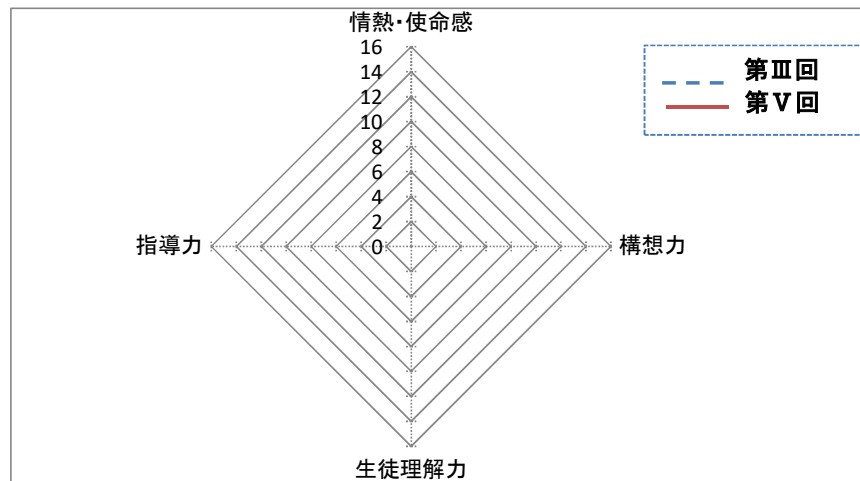
(到達目標)



- 4 とてもあてはまる
- 3 おおむねあてはまる
- 2 あまりあてはまらない
- 1 ほとんどあてはまらない

授業力の構成要素と解釈	到達目標 (基本的な行動指針)	第Ⅲ回	第Ⅴ回
〔情熱・使命感〕 児童生徒のよりよい成長を願って、周囲と協働しながら自らの資質向上を図っていく姿勢	授業に関して自ら課題をもち、日々改善に努めている。		
	授業改善に役立てるために、他の教職員から学ぶようにしている。		
	新しい教育情報を進んで得ようとしている。		
	多様な価値観を尊重する態度や幅広い視野・知識を身に付けようとしている。		
〔構想力〕 指導のねらいを明確にするとともに教材を研究し、見通しをもって授業を計画・創造、改善していく力	めざす児童生徒の姿を具体化し、学習指導要領に基づいた授業を実践している。		
	児童生徒の意識や思考の流れなどを見通した授業づくりをしている。		
	指導内容の系統性・関連性を考慮した授業づくりをしている。		
	指導と評価の一体化をしている。		
〔生徒理解力〕 集団の中で個の可能性を引き出すために、児童生徒一人一人の実態・特性を理解する力	児童生徒一人一人や学び、理解している。		
	児童生徒一人一人の実態を工夫している。		
	授業において、児童生徒活動したりする場を設けている。		
	児童生徒の学習意欲等の一人の姿や変容をとらえている。		
〔指導力〕 学び合う集団づくりに努め、専門的な指導技術をもとに授業の目標の達成に向けて授業を実践する力	学習規律の確立や児童生徒の学び合いの場づくりや学習集団づくりをしている。		
	かかわり合い、支え合う学習集団づくりをしている。		
	本時の目標が達成されるように、学習活動を組み立て、時間配分し授業を進めている。		
	本時の目標に向かって児童生徒が学習するための発問・説明・指示等の指導技術をもっている。		

②到達目標について判断する具体的な視点は、各自で考えてください。例えば、「児童生徒の意識や思考の流れなどを見通した授業づくりをしている。」という到達目標の場合は、「児童生徒の意識や思考の流れのイメージをもち、導入・展開・まとめを作成している」・「板書に計画性があり、思考の流れに沿って構造的になっている」・「指導上の留意点等を明確にしている」などの視点が考えられます。



A. 自己診断をみながら自己評価を書いてみましょう。

B. 校内における研修(実践研)等で言われることを書いてみましょう。

③グラフを参考に自己評価を書きましょう(A)。また、自己評価の視点をより妥当なものとするために、他の教員や児童生徒による授業評価等も参考にしてみましょう(B、C)。

C. 授業評価等で児童生徒から授業に関して言われることを書いてみましょう。

D. 授業力の構成要素から1つ選

選んだ構成要素
(例) 生徒理解力

④A～Cで記入したことを受けて、2学期に重点的に自己課題とする授業力の構成要素を1つ書き、2学期に向けて具体的な自己課題を設定しましょう。(ここのまでを第Ⅲ回教育センター研修で記入する。)

E. 自己診断をみながら、2学期中に

⑤校内における研修や、教育センター研修における「授業づくり」の成果と課題を踏まえて、今後の展望を書きましょう。フォローアップ研修の課題研究主題を設定する際に、この内容を参考にするとよいでしょう。(第Ⅴ回教育センター研修で記入する。)

「授業づくり3」の研修で扱う模擬授業について

- 1 実施研修 第Ⅲ回教育センター研修
- 2 目的 児童生徒を主体とし、本時の目標に迫る授業の在り方を理解し、指導力を身に付ける。
- 3 内容 (ア) 本時のねらいを明確にし、児童生徒を主体とした授業づくりの基本
(ウ) 模擬授業による授業研究
- 4 視点 **「本時のねらいが明確な授業」**
「児童生徒を主体とした授業」
※「令和4年度版 授業チェックリスト」(令和4年4月 島根県教育委員会)等を参照
- 5 時間 1人35分
(準備・説明3分、模擬授業15分、協議等17分 ※3～5人のグループで行う。)
※時間は目安です。
- 6 留意事項
 - (1) 本研修以降に行う授業を取り上げること。また、第Ⅰ回教育センター研修で、自分が特に改善に取り組みたい問題点として挙げた内容を踏まえること(前ページ参照)。
 - (2) 学習指導案を作成する際に、4で示した2つの視点を踏まえて授業展開全体を考えること。
 - (3) 4で示した2つの視点について、教師の手立てが見える場面で模擬授業を行うこと。
 - (4) 授業の流れを説明して終わるようなダイジェスト版ではなく、(3)の場面を切り取ったものとする。
- 7 その他
 - (1) 学習指導案の準備等の詳細については、第Ⅲ回教育センター研修の実施要項で通知する。P15を参照のこと。
 - (2) 「経験年数に応じた研修(教育センター研修)において大切にしたい『授業力』の視点」(P3)を読み、準備の参考にすること。

(模擬授業学習指導案例)

◆この様式を参考にし、A4判1枚程度にまとめてください。(両面印刷可)

第○学年○○科学習指導案 学 校 名 指導者氏名		
1 単元（題材）名		
2 単元（題材）目標		
3 本時の学習		
(1) 目標		
(2) 展開		
学習活動と予想される子どもの反応	教師の支援（・）と評価	
(3) 評価		
十分満足できると判断される状況	概ね満足できると判断される状況	支援を要する状況への手立て

※各項目の内容等はP24～47を参考にしてください。

※評価については『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校、中学校）』（令和2年3月 国立教育政策研究所）、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（高等学校）』（令和3年8月 国立教育政策研究所）を参考にしてください。

国立教育政策研究所のHPからダウンロードすることができます。市販もされています。



必読の資料です！！

模擬授業・協議の進め方について

- ◆模擬授業・協議のテーマ 「本時のねらいが明確な授業」
「児童生徒を主体とした授業」
- ◆グループに分かれて模擬授業と協議を行います。基本的に受講者が主体的に進めていく研修とします。

1 模擬授業について

- (1) 模擬授業の時間（目安）
 - ① 1人35分
 - ② 時間配分（準備・説明3分、模擬授業15分、付箋5分、協議12分）
- (2) 進め方について
 - ① 名簿順に授業を行ってください。
 - ② 司会や計時も順番に行ってください。（授業が終わった人・最初は名簿の最後の人）
- (3) 付箋について
 - ① 模擬授業終了後、次のことについて付箋に書いてください。
「本時のねらいが明確な授業」「児童生徒を主体とした授業」について
ア ブルー … 効果的であったと思われる教師の手立て等
イ ピンク … 授業者への提案
 - ② ピンクとブルーについてそれぞれ1枚以上書いてください。
 - ③ 授業者自身も時間があれば付箋に書いてください。
- (4) 協議について
 - ① 司会の人から「模擬授業振り返りシート（P17を参照）」にコメントしながら付箋を貼っていきます。（「本時のねらいが明確な授業」「児童生徒を主体とした授業」の視点で）
 - ② それに付け加えながらメンバーの付箋を貼ってください。
 - ③ 最後に授業者が特に意識した視点について協議します。
 - ④ 「良い点」「気になる点」のまとめについては、模擬授業が終わってから個人での振り返り作業で行います。

2 授業の振り返りとグループ協議について

- (1) 個人での振り返りについて
 - ① 全員の模擬授業が終わってから、自分の付箋を整理します。自分の授業について「良い点」「気になる点」について記入します。
 - ② 「気になる点」の原因等について考え、整理します。
 - ③ ①、②を踏まえて、「本時のねらいが明確な授業」「児童生徒を主体とした授業」とはどのような授業か、自分がめざしたい授業について記入します。
 - ④ 具体的な改善策を考えるとときに、『学習指導の基本を身に付けよう 授業づくりQ&A』や「授業力に関する自己診断シート」等を参考にしてください。

(2) グループ協議について

- ① 司会者、全体協議の発表者を決めます。
- ② 一人ずつ、自分の「振り返りシート」に記入した内容について話します。「気になる点」の原因や、めざしたい授業になるための具体的な手立てについて、意見交換できるとよいでしょう。
- ③ 「本時のねらいが明確な授業」「児童生徒を主体とした授業」に向けて大切だと考えたことを、グループで2～3つのキーワードとしてまとめてください。用紙1枚に、1つのキーワードを書きます。
- ④ 各グループで話し合ったことを、全体協議で伝えられるようにしてください。時間は1グループ5分以内です。

3 全体協議について

(1) 各班の発表

1班から順番に、グループで話し合ったキーワードについて発表します。

(2) 担当からのコメント

各グループから出されたキーワードを使って、担当スタッフがまとめます。

「振り返りシート」※A3判で1人に1枚配付します。

模擬授業振り返りシート		名前 _____
本時のねらいが明確な授業	児童生徒を主体とした授業	その他
気になる点	良い点	自分はこんな授業をめざしたい
↓		そのための具体的手立て
気になる原因は何だと思えますか。特に改善に取り組みたい点は何ですか。		

「授業づくり4」の研修について

◆講義・協議のテーマ

「児童生徒の資質・能力を育む授業づくり」

◆「授業づくり」の視点

「本時のねらいが明確な授業」 「児童生徒を主体とした授業」

1 「授業づくりシート」の活用

<「授業づくりシート」の記入について>

- ① 現在行っている単元・題材（またはこれから実施する次の単元・題材）の授業において、児童生徒にどのような資質・能力を育もうとしているのかを確認します。
- ② 実施した単元・題材の授業において児童生徒の資質・能力が育成できたかどうかを、どのように評価するのか（どのように評価しているのか）を整理します。
- ③ ①及び②のために、単元・題材の導入においてどのような授業づくりを行ったのか（行うのか）を書き出します。その際、「児童生徒の問い」、「教師のはたらきかけ」、「教師の支援」、などの視点からその具体について整理します。

<グループ協議について>

- ① 司会者を決めます。
- ② 一人ずつ、自分の「授業づくりシート」に記入した内容について話します。「児童生徒の問い」、「教師のはたらきかけ」、「教師の支援」などの関連について、意見交換できるとよいでしょう。
- ③ 意見交換した内容をもとに、再度検討し、資質・能力を育む授業づくりについて整理しましょう。

2 「これまでの実践を振り返るシート②」の活用

<「これまでの実践を振り返るシート②」の記入について>

- ① これまで行ってきた「本時のねらいが明確な授業」「児童生徒を主体とした授業」が、児童生徒の資質・能力を育むことにどのようにつながっていたのか、どのような手立てを行えば児童生徒の資質・能力を育むことができたのかを整理します。
- ② 児童生徒の資質・能力を育むための「本時のねらいが明確な授業」「児童生徒を主体とした授業」の2つの視点で9月～1月の授業実践を振り返り、「気になる点」や「良い点」を書き出します。「気になる点」についてはその原因及び改善に取り組みたいことについて考えます。

<グループ協議について>

- ① 司会者を決めます。
- ② 一人ずつ、自分の「これまでの実践を振り返るシート②」に記入した内容について話します。「気になる点」の原因や、めざしたい授業になるための具体的な手立てについて、意見交換できるとよいでしょう。
- ③ 児童生徒の資質・能力を育むためにめざす授業、そのための具体的な手立てを「これまでの実践を振り返るシート②」に記入して整理します。

「これまでの実践を振り返るシート②」

これまでの実践を振り返るシート② 資質・能力を育むための 「本時のねらいが明確な授業」	名前 資質・能力を育むための 「児童生徒を主体とした授業」	その他

気になる点	良い点	児童生徒の資質・能力を育むために 自分はこんな授業をめざしたい そのための具体的手立て
気になる原因は何だと思いますか。特に改善に取り組みたい点は何ですか。		

これまでの実践を振り返るシート②

名前

資質・能力を育むための
「本時のねらいが明確な授業」

資質・能力を育むための
「児童生徒を主体とした授業」

その他

気になる点

良い点

児童生徒の資質・能力を育むために
自分はこんな授業をめざしたい

そのための具体的手立て

気になる原因は何だと思いませんか。特に改善に取り組みたい点は何ですか。

フォローアップ研修（2年目）『「課題研究」レポート』作成のためのリーフレット

課題研究については、次に示す「1 研究構想」、「2 研究のまとめ方」を参考にしてまとめてみましょう。

1 研究構想

どんな研究を、どのように進めていくかの構想作りには、下のようなワークシートを利用すると構想を立てやすい。

研究構想シートの記入例

A 研究主題 「論理的思考力を育む授業方法の開発」 ～問いと学び合いを取り入れた世界史学習を通して～		「Cを達成するためには、〇〇を〇〇すれば〇〇になるだろう」「〇〇は〇〇なのではないか」という予測を、研究の指針・ビジョンとして記入する	
B 研究動機 ・世界史の授業で教師が歴史の用語や流れの説明に終始してしまっている。 ・生徒が調べたり、考えたり、話し合ったりする場面が少ない。 ・本時のねらいを達成するための問いが設定できていない。	D 研究仮説 ・授業ごとに論理的思考を必要とする問いを用意し、その解答をペアで説明し合う場面を設定すれば、生徒の論理的思考力が育まれるであろう。	C 研究の目的 ・生徒が問いに対して授業で得た知識だけでなく、調べたり学び合ったりして得られた知識を加えて論理的に思考できる授業を開発する。 自分が目指す授業像	
	E 研究手順 ①アンケート実施（事前・事後） ②問いの作成、授業実践 ③ノートやワークシートの記述分析 ④考察		Dを実施・確認するための作戦・スケジュール（時期、場所、対象、使用資料、手順）など、具体的な研究行動を記す
	F 研究成果の検証方法 ①論理的思考に関するアンケート（事前、事後） ②授業中のノートやワークシートの記述 ③定期試験の解答状況（1～2学期） によって論理的思考力の変化を測定する		Dが機能したか、正しかったかを判断する方法を記す
自分の授業の現状や課題			

2 研究のまとめ方

「これからの読書教育について」のような漠然とした問いではなく、「読書習慣を支援する教室環境の構築について」のように焦点化する

研究主題

研究のタイトル。1～7が総括して表されるもの。研究主題をより具体化するためにサブタイトルをつけることもできる。

（「論理的思考力を育む授業方法の開発」～問いと学び合いを取り入れた世界史学習を通して～）

1 研究の目的	この研究で何を明らかにしようとしているか、何をめざしているか。 （生徒が問いに対して授業で得た知識だけでなく、調べたり学び合ったりして得られた知識を加えて論理的に思考できる授業を開発する。）
2 研究の動機	なぜこの研究主題を設定したか。 自分の授業づくりの課題、学校の実態や課題や社会的・学問的背景など研究の基盤となるもの。 （世界史の授業で教師が歴史の用語や流れの説明に終始して…）

「近年〇〇が叫ばれている」などの書き出しを避け、自発的な自らの課題として記述するようにする

3 研究仮説	この研究の結果についてどのような予測が考えられるか。 研究の指針、ビジョン。研究の目的と合わせて記述してもよい。 (授業ごとに論理的思考を必要とする問いを用意し、その解答をペアで説明し合う場面を設定すれば、生徒の論理的思考力が育まれるであろう。)
4 研究の方法	研究の目的を達成、あるいは研究仮説を確認するために、いつ、どこで、誰(何)に対して、何を使って、どのような方策を行うか。また成果をどうやって確かめるか。 (対象：〇〇高等学校3年、授業実施期間：6月1日～11月31日、科目名：世界史B、手順：アンケート実施(事前・事後)、問いの作成、授業実践、定期考査のデータ収集)
5 結果	研究仮説についてどのような結果が得られたか。 (論理的思考力の変化が見られるか。)
6 考察	結果をもたらした理由は何かを分析する。
7 まとめ	研究の目的は達成できたか。 研究を通してどのようなことがわかったか、また明らかになったか。
8 参考文献等	引用文献、参考文献の一覧、添付資料など。 (著者名、書名、出版年、出版社など)

先行研究などを参考にしながら、自分の考えを客観的なものとして述べるようにする。引用の場合は「〇〇で述べられているように」などと明記する

成果と課題を明確にする

課題研究レポート作成上の留意点

- ・ 1文はあまり長くならないようにする。
- ・ 文体は「である」調で書く。
- ・ 表記や用語を統一する。
- ・ 事実と意見を区別する。
- ・ 説明には図表を有効に活用する。
- ・ 主語・述語などの文の関係、語句の係り受けに乱れないようにする。
- ・ 必要な場所では接続詞を積極的に使い、論理を明示的にする。
- ・ 章や節の中で、結論やまとめを先に書き、そのあとにその結論やまとめを論証する記述を行うようにする。

【参考】 一般的な教育実践研究の進め方

観 察	①実態把握	子ども・学校等の実態を観察し、課題を発見する。
仮 説	②研究の目的の設定	その課題について、子ども・学校等のどういう姿をめざしたいのか、まとめる。
	③研究仮説の設定	①を②にするために、何をどのようにすればよいと考えるかを明確にする。
	④実践方法の設定	③を、具体的には、どのように実践や追究するのかを検討する。
	⑤検証方法の設定	③が立証されたかどうかを判断する方法を考える。
検 証	⑥実践・追究	③に基づいた教育活動を④に従って行う。
	⑦結果の検証	⑥の結果をまとめ、③が立証されたかどうかを⑤によって検討する。
	⑧考察	③が機能したのはなぜか、機能しなかったのはなぜかを検討する。
	⑨研究の総括と今後の課題のまとめ	この研究で何が明らかになったか、また実践上の課題や、さらにどのような教育活動が必要かをまとめる。

フォローアップ研修（2年目） 課題研究構想シート

所属の校種・職種		
番号/氏名		

A 研究主題		
B 研究動機	D 研究仮説	C 研究の目的
	E 研究手順	
	F 研究成果の検証方法	

学習指導案の役割と書き方・考え方（基本型）

1 学習指導案の役割

学習指導案を作成することは「どのような資質・能力を身に付けさせるために」「どのような学習指導を行うのか」という内容や手順を具体的に考えていくことです。指導者は、年間指導計画に基づいた系統性や単元全体の目的、対象となる児童生徒の実態や課題を踏まえてどのような内容をどのような学習活動を通して指導していくのかという単元を構想したうえで、毎時間の流れと内容を考え必要な準備をしていきます。学習指導案を作成することで、その内容や指導方法を事前に考えたり工夫したりしながら練り上げていくことができます。つまり、学習指導案は、単元を見通したうえでその時間のねらいを達成するためのとても重要な計画であるといえます。

研究授業では、授業のねらい、工夫点、指導者の指導上の留意点等、授業参観の観点を明確にしておくことが重要です。また、児童生徒の実態や自校のめざす児童生徒像等についてあらかじめ知っておいてもらいたいこともあります。このようなとき、学習指導案は、共通理解を図るための資料として重要な役割を果たします。

授業後には、児童生徒の様子や自分自身の指示や発問等の指導を振り返って成果や課題を明らかにすることが必要です。その際、児童生徒の反応や計画の変更点、反省点など書き込みがされた学習指導案は授業記録としての役割を果たし、研究協議の話し合いを深め改善案や有効な手立てを出し合うことで、次の授業構想への準備にもなります。

2 学習指導案（各項目）の意味と書き方

（1）単元名

単元名とは、いくつかの教材や活動で意図をもって構成された一連の学習活動を示す名称である。また、教科の中でも、音楽、図画工作、家庭、美術、技術・家庭等においては、「単元名」ではなく「題材名」と表記されることもある。学習指導要領に示された各内容項目の有機的な関連を図って一つの指導単位にまとめて組織した場合には「題材名」と表記する。

また、総合的な学習の時間は「単元名」で、道徳科は「主題名」で、特別活動は内容により、「議題」、「題材」で表記する。

【チェックポイント】

学習のねらいや内容が一目でわかるように明記されている。

「単元名」が教科等に応じた表記になっている。

(例)

道徳科	:	主題名	教材名「はしの上のおおかみ」 ねらい「身近にいる幼い人や高齢者に 温かい心で接し、親切にする。」
特別活動	:	議題「どうぞよろしくの会をしよう」 題材「すてきな言葉」	
総合的な学習の時間	:	単元名「捺染(なっせん)ぞめで自分たちの手拭いを染めよう」	

「単元名」等と「教材名」が混同されていない。

(混同例)

国語科	×	単元名「ごんぎつね」
	○	単元名「読んで考えたことを話し合おう」

(2) 単元（題材）目標

単元（題材）目標とは、学習指導要領に示された目標及び内容に基づいて、意図をもって構成された一連の学習活動（単元）をふまえた教師側の指導計画上の目標である。そのため、「～できるようにする。」「～を身に付けさせる。」といった教師を主語にした文末表現となるが、児童生徒を主語にした方が設定しやすい教科は「～する。」「～できる。」「～を味わう。」等で表現することもある。いずれにしても、1つの指導案の中で、視点が混在することなく統一した表現になっていることが大切である。

なお、3つの柱で整理された育成する資質・能力ごとに記述する場合もあるが、ねらいを絞ることから、単元（題材）全体の目標を1文(程度)で記述する場合もある。

【チェックポイント】

- 学習指導要領や各教科等の学習指導要領解説を参考に、単元全体で身に付けさせたい資質・能力が明確にされている。
- 学習を通してめざす児童生徒の姿が簡潔に記述されている。
- 複数の目標がある場合、主語（視点）が混在していない。

(3) 単元（題材）の評価規準

教師は、各教科等の目標の実現に向け、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすために、学習評価を行っている。一方、「学期末や学年末の事後的な評価に終始してしまうことが多く、学習評価の結果が児童生徒の学習改善につながっていかない。」「教師によって評価の方針が異なり、学習改善につなげにくい。」など、現状の学習評価についていくつかの課題が指摘された。

このような課題や教師の働き方改革等の状況を踏まえ、「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」(中央教育審議会)において、学習評価の改善の基本的な方向性が示された。

- ・ 児童生徒の学習改善につながる評価にすること。
- ・ 教師の指導改善につながる評価にすること。
- ・ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと。

各教科等の評価については、「観点別学習状況の評価」と「評定」がある。「観点別学習状況の評価」とは、学校における児童生徒の学習状況を、複数の観点から、それぞれの観点ごとに分析する評価のことである。「評定」は、各教科の学習の状況を総括的に評価するものであり、数値で表す。

各教科等の学習において、どの観点で望ましい学習状況が認められ、どの観点到課題が認められるかを明らかにすることにより、具体的な学習や指導の改善に生かすことを可能とするものである。各学校において目標に準拠した観点別学習状況の評価を行うに当たっては、観点ごとに評価規準を定める必要がある。

評価規準とは、観点別学習状況の評価を的確に行うため、学習指導要領に示す目標の実現の状況を判断するよりどころを表現したものであり、新しい学力観に立って児童生徒が自ら獲得して身に付けた資質・能力の質的な面を表したものである。

単元の評価規準は、内容のまとまりごとの評価規準を踏まえて作成する。その際、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校、中学校）』（令和2年3月 国立教育政策研究所）及び『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（高等学校）』（令和3年8月 国立教育政策研究所）を活用するとよい。

【チェックポイント】

- 自校の指導計画に基づき、単元ごとに各観点に即して「概ね満足できる」状況が設定されている。
- 各観点の評価規準が、単元目標を踏まえて具体的に設定されている。
- 文末が「～しようとしている。」「～している。」「～ができる。」等の児童生徒の状態を示す表現になっている。

(4) 単元（題材）について

① 教材観（教材について）

指導者が、学習指導要領に示された目標及び内容に基づいて、単元設定の意義と単元のもつ価値を明確にし、教材に対してどのような見方をもっているのかを述べるところである。そのため、指導者がその単元をどのように理解し、児童生徒の資質・能力を育成するためにこの単元や教材がどのような意味をもち、今後の学習にどのようにつながっていくのか、他学年や他教科等の学習とどのようにつながっているか、実生活とどのように結びついているか等を示すことが大切である。

【チェックポイント】

- 学習指導要領に示された目標や内容との関連が記述してある。
- 児童生徒の資質・能力を育成するために単元や教材のもつ教育的意義や、他教科、実生活等との関連が述べてある。

② 児童・生徒観（児童生徒について）

指導者が、児童生徒の実態を調査や観察により客観的にとらえ、一人一人の学習に対する構えなどを具体的に述べるところである。

なお、児童生徒の課題にだけ目を向けるのではなく、個や集団のよさに着目することが必要である。ただし、児童生徒の課題が記述してある際には、個人情報保護の観点から、個人を特定できるような記述は避ける必要がある。また、学級の構成や児童生徒の実態を表す必要がある場合は、男女の区別を必要とするとき以外は、性別表記はしない。

【チェックポイント】

- 単元に関わって児童生徒がどのような実態（レディネス）であるのかが記述してある。
- 単元に関わるこれまでの学習履歴の状況が記述してある。
- 学習に対しての学級集団の特徴について記述してある。
- 小・中学校においては、全国学力・学習状況調査や県学力調査から見られる課題等について必要に応じて記述してある。

③ 指導観（指導にあたって）

教材観及び児童・生徒観を踏まえて、単元全体の学習指導の具体的方法や手立てについて述べ、さらに本時の指導を具体的に述べるところである。

【チェックポイント】

- 教材教具、学習形態、学習過程、教師の支援のポイントなどについて指導者の意図的な活動が記述してある。
- 単元全体の指導に合わせ、本時の指導が具体的に記述してある。

※特別支援教育の指導案の場合は、前頁(3)「単元の評価規準」及び(4)「単元について」に児童生徒一人一人についての実態・目標・評価規準・手立てを記述する。(＝個別の支援計画)

※①～③の順序性はない。

(5) 単元(題材)の指導と評価の計画

① 目標・学習活動

各時間の目標・学習活動は、その時間でどのような資質・能力を身に付けさせるのか、どのような学習活動を行うのかが明確になっていることが大切である。

【チェックポイント】

- 目標や学習活動は学習指導要領の該当箇所を根拠に具体的に示されている。
- 単元目標を達成するための学習活動の流れに具体性と必然性がある。
- 単元目標や本時の目標をそのまま当てはめた表現ではなく、児童生徒が実際に行う学習活動を具体化した表現(「どのようなこと」を「どのようにして行うか」)で記述されている。

- (例) × 「かけ算の答えの求め方を理解する。」
 ○ 「かけ算の答えは、同じ数の足し算で求められることを図で表す。」

② 学習評価

毎時間、3つの観点全てについて評価したり、児童生徒全員について記録をとり総括の資料とするために蓄積したりすることは現実的でない。単元の目標を分析し、各時間のねらいにふさわしい1~2観点に評価項目を精選するとともに、記録に残す場面も精選することが大切である。そこで、児童生徒全員の学習状況を記録に残す場面や適切に評価するための評価方法等の計画を立てておく。下表は、算数において「指導に生かす評価」の場面、「記録に残す評価」の場面及びそれぞれの評価方法を表した単元指導計画の例である。

「指導に生かす評価」は、主に「努力を要する」状況と考えられる児童生徒の学習状況を確認し、その後の指導に生かすための評価である。また、「記録に残す評価」は学級全体の児童生徒の学習状況について総括の資料にするための評価である。

③ 指導と評価の計画の表記例

(例) 指導と評価の計画 (全○時間 本時 ○ / ○)

次	時	目標 又は ねらい	主な学習活動	評価規準(評価方法)		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
(1) 6の だん、 7の だん	1	6の段の九九の構成の仕方を考えることができる。	累加や乗法の積の関係などから6の段の九九の構成の仕方について考える。		・思①(行動観察 ノート分析)	・態①(行動観察、 ノート分析)
	2	6の段の九九を確実に唱え、適用することができる。	6の段の九九を唱えたり、九九表を見ながら、性質やきまりを見つけたりする。		・思②(行動観察 ノート分析)	
	3		6の段の九九を使う乗法の問題に取り組む。	・知①(ノート分析) ・知③(行動観察)		
	4 5 6	7の段の九九(略)	7の段の九九(略)	★知①(ノート分析)	・思① ★思②(行動観察 ノート分析)	★態①③(行動観察、 ノート分析)
(2) 7 8	8の段の九九(略)	8の段の九九(略)	★知③(行動観察)			

評価の観点の略称:「知」知識・技能、「思」思考・判断・表現、「態」主体的に学習に取り組む態度

①②③等は、単元の各観点別評価規準に記した①②③等を表す

「★」は総括の資料にするために記録に残す評価の機会を、「・」は指導に生かす評価の代表的な機会を表す。

※指導と評価の計画の表記については、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』を参照すること。教科等によって異なる表記例が示されている。

【チェックポイント】

- 評価の観点とは1つ程度としている。
- 評価方法が、(発言)(ノート)等として具体的に見取ることができるもので明記されている。

(6) 本時の学習

① 目標

1時間の授業で、どのような資質・能力を身に付けさせるのかを記したものである。

【チェックポイント】

- 単元指導計画と整合性が取れている。
- 目標が2つ以上あるときは資質・能力別に記述してある。

「目標」「ねらい」「めあて」について

「目標」は児童生徒に身に付けさせたい資質・能力。

「ねらい」は目標に迫るために行う学習活動等の教師の意図。

「めあて」は「目標」「ねらい」を達成するための学習課題を児童生徒向けの言葉で示したもの。

② 展開

時系列に児童生徒の活動と、その活動に対応した教師の動きや関わり方を示したものである。そのため、児童生徒の活動の部分では、問題解決的な学習過程でどのような活動を行うのが大切である。また、教師の動きや関わり方の部分では、目標を達成させるための指導の工夫や児童生徒の反応に対する支援や働きかけをどのように行うのが大切である。

【チェックポイント】

●児童生徒の学習活動の欄

- 見通し・振り返りが設定されている。
- 主な発問を設定し、それに対する児童生徒の予想される反応が記述してある。
- 各学習活動にかかる時間が記してある。
- 文末は、児童生徒が主語になり「～について考える。」「～について話し合う。」などの表現になっている。

●教師の支援の欄

- 児童生徒の予想される反応に対する支援が記述してある。
- 「努力を要する」状況から「概ね満足できる」状況にするための支援が記述してある。
- 教材や資料の使用場面や使用方法が記述してある。
- 評価規準と評価方法が記述してある。
- 評価規準は、本時の目標と整合性が取れている。
- 文末は教師の立場で記述し、「～を知らせる。」「～できるようにする。」などの表現になっている。

③ 評価（評価基準）

児童生徒に付けたい資質・能力を、具体的な児童生徒の成長した姿として文章表記した「評価規準」と違って、「評価基準」は、評価規準で示された付けたい資質・能力の習得状況の程度を明示するための指標を、数値（1・2・3）、記号（A・B・C）、または文章表記で示したものである。すなわち、設定した目標をどれだけ達成できたかの判断となる目安のことである。そのため、評価基準を「十分満足できると判断される状況」「概ね満足できると判断される状況」「支援を要する状況への手立て」として記述する。

毎時間設定する必要はなく、記録に残す評価を行う場合に設定する。なお、本時の展開の末に表記されることが多いが、単元の評価規準にあわせて表記することもできる。

【チェックポイント】

- 単元指導計画の評価規準の内容と整合性が取れている。
- 評価基準が具体的に記述してある。

単元の評価規準にあわせて評価基準を書いている例

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む態度
評価規準	①必要な部分の長さを用いることで、三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積は計算によって求めることができることを理解している。 ②三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積を、公式を用いて求めることができる。	①三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積の求め方を、求積可能な図形の面積の求め方を基に考えている。 ②見いだした求積方法や式表現を振り返り、簡潔かつ確かな表現を見いだしている。	①求積可能な図形に帰着させて考えると面積を求めることができるというよさに気づき、三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積を求めようとしている。 ②見いだした求積方法や式表現を振り返り、簡潔かつ確かな表現に高めようとしている。
「概ね満足 できる」 状況	①底辺、高さ、上底、下底などの長さから、面積は計算によって求めることができることを理解している。 ②面積を求めるために必要な部分の長さから、公式を用いて面積を求めることができる。	①既習の求積可能な図形に帰着させて、面積を求めている。 ②求積方法やその式表現を振り返り、面積を求めたい図形の構成要素に着目して言葉の式をつくっている。	①既習の求積可能な図形に帰着させて、面積を求めようとしている。 ②求積方法やその式表現を振り返り、面積を求めたい図形の構成要素に着目して言葉の式をつくらうとしている。
「十分満足 できる」 状況	①底辺を決めると高さが決まることを用いて、同じ図形の面積を複数の方法で求めることができることを理解している。 ②公式を用いて、同じ図形の面積を複数の方法で求めることができる。	①複数の方法で、既習の求積可能な図形に帰着させて、面積を求めている。 ②複数の求積方法やその式表現を振り返り、面積を求めたい図形の構成要素に着目して言葉の式をつくっている。	①複数の方法で、既習の求積可能な図形に帰着させて、面積を求めようとしている。 ②複数の求積方法やその式表現を振り返り、面積を求めたい図形の構成要素に着目して言葉の式をつくらうとしている。

- ・「平成 27 年度 道徳教育指導者養成研修」（文部科学省）文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 赤堀博行 「講義 5 道徳教育を推進するリーダーとして」補助資料
- ・『楽しく豊かな学級・学校生活を作る特別活動 小学校編』文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成 27 年 9 月
- ・『（小学校編）今、求められる力を高められる総合的な学習の時間の展開』文部科学省 平成 22 年 11 月
- ・『学校教育辞典』第 3 版/教育出版
- ・『「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」の活用方法について 小学校・中学校編』国立教育政策研究所 教育課程研究センター 平成 23 年 11 月
- ・『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校、中学校）』国立教育政策研究所 教育課程研究センター 令和 2 年 3 月
- ・『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（高等学校）』国立教育政策研究所 教育課程研究センター 令和 3 年 8 月

第2学年〇組 算数科学習指導案

※丸数字は「学習指導案の見方・指導のポイントチェックリスト」の番号に対応する

日時 令和〇年〇月〇日（〇）〇校時
 指導者 〇 〇 〇 〇
 場所 〇 〇 教室

①学習のねらいや内容が一目でわかるように明記 ②③

1 単元名 かけ算（2）九九をつくろう

2 単元の目標

④学習指導要領や各教科等の学習指導要領解説を参考に記述

かけ算九九を構成しその方法を考える活動やかけ算を用いたものの数の求め方を考える活動などを通して、乗法の意味について理解を深め、それを用いることができるようにするとともに、乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができるようにする。

3 単元の評価規準

⑤学習を通して目指す児童生徒の姿を簡潔に記述 ⑥複数の目標がある場合、主語を混在させない

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 乗法の意味について理解し、乗法が用いられる場合を知っている。 乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。 乗法九九について知り、1位数と1位数との乗法の計算が確実にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 数量の関係に着目して計算の意味や計算の仕方を考えたり計算について成り立つ性質を見いだしたりしている。 乗法に関して成り立つ簡単な性質を調べ、乗法九九を構成したり計算の確かめをしたりすることに生かしている。 簡単な場合について、2位数と1位数との乗法の計算の仕方を考えている。 乗法が用いられる場面を、具体物や図などを用いて考え、式に表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 進んで乗法九九を構成しようとしている。 乗法について成り立つ性質や決まりを進んで見付けようとしている。 乗法の式に表したり、式を読み取ったりすることに興味をもち、いろいろな場面を式に表そうとしている。

4 単元について

⑦「概ね満足できる」状況が設定 ⑧単元目標を踏まえて具体的に設定

(1) 教材観（教材について）

⑨「～しようとしている。」「～している。」等の児童生徒の状態を示す文末表現

本単元で扱う乗法は、学習指導要領には以下のように位置づけられ、学習の関連としては下図の通りである。

A 数と計算

⑩学習指導要領に示された目標や内容との関連の記述

(3) 乗法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。

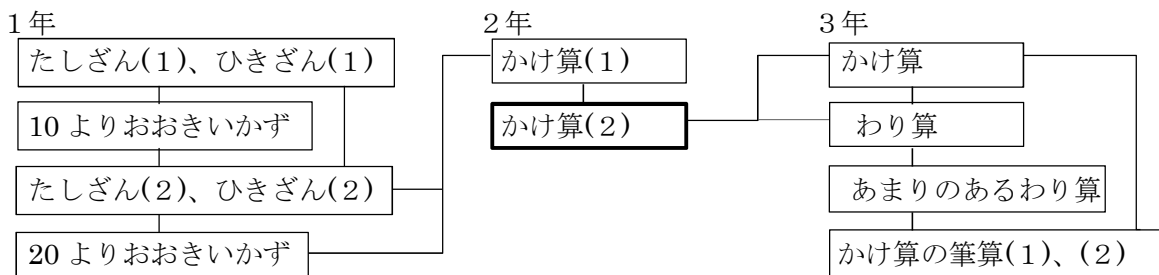
ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

- (ア) 乗法の意味について理解し、それが用いられる場合について知ること。
- (イ) 乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。
- (ウ) 乗法に関して成り立つ簡単な性質について理解すること。
- (エ) 乗法九九について知り、1位数と1位数との乗法の計算が確実にできること。
- (オ) 簡単な場合について、2位数と1位数との乗法の計算の仕方を知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

- (ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。
- (イ) 数量の関係に着目し、計算を日常生活に活かすこと。

《本単元の学習の関連と発展》



本単元では、前単元に引き続き児童自ら乗法九九を構成したり数の並び方のきまりを発見したりしながら、乗法の意味について理解できるよう学習を進めていく。

乗法九九は、以後の学年で取り扱う乗法や除法の計算の基盤となるものであることから、体験的な活動や身近な生活体験などと結び付けて学習し、その習熟を図ることが大切である。また、乗法を生活や学習に活用しその有用性を感じさせ、進んで学習や日常生活に用いようとする態度を育てる上で有意義な単元である。

⑪単元等のもつ教育的意義や実生活との関連の記述

(2) 児童観 (児童について)

本学級は、25名の学級である。算数の学習に意欲的に取り組み、自分の考えを書いたり発言したりすることができる児童が多い。しかし、中には式は書いてもその数が表す意味を話すことや図を描くことが苦手な児童もいる。そこで、ペア学習を取り入れたり、ICTを活用したりしてみんなで学び合う活動を大切にしてきた。それにより苦手な児童も式の意味などを言葉や図に表すことができるようになりつつある。

前単元から、新たな乗法九九を習得することに喜びを感じ学習への意欲が高まっている。習熟を図る場面では反復練習のみにならないよう、ゲーム等を取り入れるなどして楽しみながら学習している。

日々の授業のノートの記述や小テストなどから次のような実態である。

- ① 大部分の児童が1つ分のいくつ分を表す乗法の意味を理解し、乗法九九は定着している。
- ② 立式の時にかける数とかけられる数を間違える児童が数名いる。
- ③ 図と式を対応させて表し求めることができる児童は6割程度である。
- ④ 乗法九九(2の段～5の段)の定着が図れていない児童が数名いる。

⑮学力調査等から見られる長所や課題等についての記述

以上のことから、乗法の式の意味理解の確実な定着には課題がある。

⑯教材教具、学習形態、学習過程、教師の支援のポイントなどについて指導者の意図的な活動の記述

(3) 指導観 (指導にあたって)

本単元では、前単元で学習した乗法の性質やきまりを用いながら、児童自らが九九を構成していくような主体的な学習を大切にしたい。乗法九九の暗記のみの単調な学習にならないようにするため、数字の並び方や変化の規則性を感じることができる数図操作などの活動を取り入れていく。また、九九表を用い、数の並び方やきまり発見の面白さを感じることができるよう、対話的な学習を中心とした学び合いの時間の充実を図っていく。そうすることで乗法の意味理解を確実にするとともに算数の学習への意欲を高めていきたい。

本時は、乗法九九を活用して問題を解決する場面である。この⑰単元全体の指導に合わせ、本時の指導の記述と数のまとまりを見つけたり、工夫してまとまりを作ったりすることが必要となる。そこで、めあての提示後個人思考に入る前に数人に考えている求め方を尋ね課題解決の見通しがもてるようにする。また、考えがもちにくい児童にはヒントとなるワークシートを準備し思考の手助けとする。

学び合いの際には、ペアでブロックを操作して数のまとまりを確認したり、他者の考えを図と式を関連させながら全体で話し合ったりすることで確実に理解させたい。意見を取り上げる際、「同じ数ずつ囲む」考えや「分ける」「動かす」考えを中心に取り上げ、乗法九九を活用するよさを感じさせたい。振り返りの場面では自分にとってよりよい考えを意識させることで深い学びにつなげたい。終末では、日常生活の一場面を目を向けさせ、乗法を活用しようという意欲につなげていきたい。

⑰単元全体の指導に合わせ、本時の指導の記述

⑱目標や学習活動は学習指導要領の該当箇所を根拠に具体的に表現

⑲学習活動の流れに具体性と必然性がある。

5 単元指導計画 (全17時間 本時15/17)

次	時	目 標	主な学習活動	評 価			評価規準 (評価方法)
				知	思 考	態 度	
⑳実際にを行う学習活動を具体化した表現で記述							
(1) 6、7の段 (2)	1	6の段の九九の構成の仕方を考えることができる。	累加や乗法の積の関係などから6の段の九九の構成の仕方について考える。		○	○	乗法について成り立つ性質やきまりを用いて九九を構成しようとしている。(観察・ノート)
	2 3	6の段の九九を確実に唱え、適用することができる。	6の段の九九を唱えたり、九九表を見ながら、性質やきまりを見つけたりする。6の段の九九を使う乗法の問題に取り組む。	○			6の段の九九を見直すことを通して、乗法について成り立つ性質を考え言葉で表現している。 ※記録に残す評価の機会を設ける (観察・ノート)
	4 ~ 11	7の段の九九 (略) 8の段の九九 (略) 9の段の九九 (略) 1の段の九九 (略)	7の段の九九 (略) 8の段の九九 (略) 9の段の九九 (略) 1の段の九九 (略)	★	○	○	乗法について成り立つ性質やきまりを用いて九九を構成しようとしている。(観察・ノート) ⑳評価方法を明記
	12	図を見て基準量の何倍かを考え (略) を深める。	長さの違う2本のテープを用い (略) 求め方を考える。		○		倍を表す数が同じでも、基準量が異なる (略) を理解している。(観察・ノート)
(4)	13 14	九九表からきまりを見つけ (略) 理解を深める。	九九表からきまりを見つけ (略) について調べる。	★		○	各段の九九を構成するときに用いた (略) まとめようとしている。(観察・ワークシート)
(5) 活用	15 本時	乗法を用いて箱の中のチョコレートの数を考え、その方法を図や式に表すことができる。	乗法を用いたチョコレートの数の求め方を考え、それぞれの求め方を発表し、伝え合う。	★		○	乗法を用いたチョコレートの数の求め方を考え、それを図や式に表している。(観察・ワークシート)
(ま) 6とめ	16	学習内容を適用して問題を解決し、学習の定着を図る。	「力をつけるもんだい」と「しあげのもんだい」に取り組む。	★	○		学習内容を適用して、問題を解決することができる。(ノート)
	17						学習内容を身に付けている。(ノート)

㉑目標を達成した具体的な姿を設定

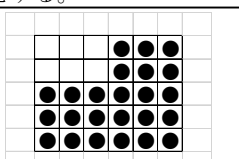
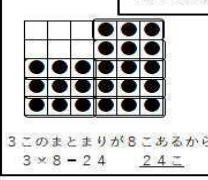
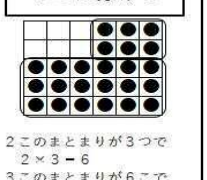
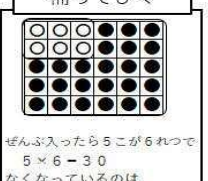
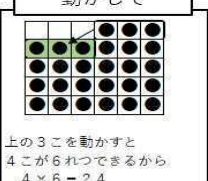
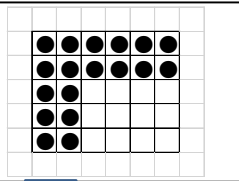
6 本時の学習

(1) 目標 (ねらい)

24 単元指導計画の目標との整合性・25 目標が複数ある場合観点別に記述・26 観点の付記

乗法を用いて箱の中のチョコレートの数の求め方を考え、図や式と言葉で表現することができる。

(2) 展開 (15 / 17 時間)

時	学習活動と予想される児童の反応	教師の支援(・)と評価
5分	<p>1. 本時の問題を知り、めあてを確認する。</p> <p>問題1 はこの中のチョコレートは、ぜんぶで何こありますか。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 全員にチョコレートが渡せるかどうかを話題にし、チョコレートの入っている箱のふたを徐々にずらしながら問題を提示することで児童の興味を引く。 箱の中のチョコレートの並びに意識を向けながら題意を理解させ、解決への意欲を高める。
10分	<p>めあて チョコレートの数をかけ算をつかってもとめよう。</p>	<p>26</p>
15分	<p>2. 問題に取り組む。</p> <p>29 「～について考える。」「～について話し合う。」等の文末表現</p> <p>3. 全体で学び合う。</p> <p>①求め方を図や式と言葉で表現する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>同じ数ずつ囲んで</p>  <p>3このまとまりが8こあるから $3 \times 8 = 24$ 24こ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>2つに分けて</p>  <p>2このまとまりが3つで $2 \times 3 = 6$ 3このまとまりが6こで $3 \times 6 = 18$ これをおわせると $6 + 18 = 24$ 24こ</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>補ってひく</p>  <p>ぜんぶ入ったら5こが6れつで $5 \times 6 = 30$ なくなっているのは $2 \times 3 = 6$ のっているチョコは $30 - 6 = 24$ 24こ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>動かして</p>  <p>上の3こを動かすと 4こが6れつできるから $4 \times 6 = 24$ 24こ</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> かけ算を使って求める方法を考えている数名の児童からその求め方のポイント聞き、学習への見通しをもたせる。 思考の手助けとなるように、ノート用の図や書き込み式のワークシート等を準備する。 『分けて』『動かして』『補って引く』の考えは、図と式の関係を理解できるように、ペアで図を示したりブロック等を操作したりしながらその操作を言葉で表現させ、数のまとまりを確認させる。
5分	<p>27 主な発問における児童生徒の予想される反応の記述</p> <p>②それぞれのやり方のよさについて学び合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 同じ数のまとまりをつくと、かけ算で求められる。 上下、左右に分けて考えると求めやすい。 チョコレートはないのに「ある」とみて計算して、後から引く方法はすごいと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の考えの中で、図と式が一致していないものや途中までのものがあれば取り上げ、全体で考えることで、自分の考えのよい点を知らせ、改善点を見つけたり、理解を深めたりできるようにする。
5分	<p>4. 学習をまとめる。</p> <p>まとめ 同じ数のまとまりをつくれれば、かけ算をつかってもとめることができる。ちがう並び方や箱のときはどうなるかな？</p>	<p>33 評価規準と評価方法の記述・34 本時の目標と整合性</p> <p>評価の観点(思考・判断・表現) 乗法を用いたチョコレートの数の求め方を考え、それを図や式と言葉で表現している。 【観察・ワークシート】</p>
5分	<p>5. 適用問題をする。</p> <p>問題2 はこの中のチョコレートは、ぜんぶで何こありますか。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> まず多様な考え方を認め、それぞれの妥当性やよさを目を向けさせ、よりよい方法への意識付けをする。 計算の仕方を分類することで、かけ算を用いて●の数を求めるよさを感じることができるよう価値づけを行う。
5分	<p>6. ワークシートにふり返りを書く。</p> <p>26</p> <ul style="list-style-type: none"> 図を二つに分けて考えたら、かけ算を使って解きやすかった。 ●を移動して長方形の形に並べたら 3×6 で一気に答えが求められて簡単だと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> 数のまとまりがわかるように、色分けをした図がかいてあるワークシートを準備しておく。 早くかけた児童にはその方法を認めた後、よりよい外の方法がないか尋ね、自分にとってよりよい方法を考え、見つけていくようにする。 学習内容の理解と、多様な考え方やそのよさについてふり返らせる。 最後に職員室の前に掲示してある賞状の写真を使い、日常の場面に活用する意欲へとつなげて授業を終える。

(3) 評価

36 単元指導計画の評価規準の内容との整合性・37 評価基準の具体的な記述

十分満足できると判断される状況	概ね満足できると判断される状況	支援を要する状況への手立て
<p>乗法も用いたチョコレートの数の求め方を考え、それを図や式と言葉で説明している。また、複数の方法を考えよりよい方法を選んでいる。☆様々な並び方や異なる箱の場合の求め方について考えるように誘う。</p>	<p>乗法を用いたチョコレートの数の求め方を考え、それを図や式と言葉で表現している。</p> <p>☆適用問題において、複数の方法で解くように指示し、よりよい方法について考えさせる。</p>	<p>数のまとまりを一緒に見つけ、それを色分けして図に表したり、ブロックを操作できるホワイトボードで操作したりできるようにする。</p>

38 「十分満足できると判断される状況」にするための手立ての記述

第3学年〇組 理科学習指導案

※丸数字は「学習指導案の見方・指導のポイント
チェックリスト」の番号に対応する

日時 令和〇年〇月〇日（〇）〇校時
指導者 〇 〇 〇 〇
場所 〇〇〇〇 教室

1 単元名 力学的エネルギー

④学習指導要領や各教科等の学習指導要領解説を参考に、本単元で身に付けさせたい力が明確にされている。
⑤学習を通して目指す生徒の姿が簡潔に記述されている。

2 単元の目標

- (1) 力学的エネルギーを日常生活や社会と関連付けながら、仕事とエネルギー、力学的エネルギーの保存を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けることができるようにする。
- (2) 力学的エネルギーについて、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、力学的エネルギーの規則性や関係性を見いだして表現できるようにする。また、探究の過程を振り返ることができるようにする。
- (3) 力学的エネルギーに関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見るができるようにする。

3 単元の評価規準

⑨文末が「～しようとしている。」「～している。」等の生徒の状態を示す表現になっている。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
力学的エネルギーを日常生活や社会と関連付けながら、仕事とエネルギー、力学的エネルギーの保存についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	力学的エネルギーについて、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、力学的エネルギーの規則性や関係性を見いだして表現しているとともに、探究の過程を振り返るなど、科学的に探究している。	力学的エネルギーに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

4 単元について

(1) 教材観

⑩学習指導要領に示された目標や内容との関連が記述してある。

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説理科編』は、「エネルギー」、「粒子」、「生命」、「地球」という科学の基本的な概念等を柱として構成され、小学校から中学校までの7年間を通じた内容の構成が示されている。「エネルギー」を柱とした内容として、小学校では「風やゴムの力の働き」や「振り子の運動」、「てこの規則性」などがある。また、中学校では「力の働き」や「電流」、「運動の規則性」などがある。このように、小学校第3学年から中学校第3学年までの系統的な学習を通して、「エネルギー」に関する基本的概念の一層の定着をはかることができるように構成されている。中学校第3学年の内容として位置づけられている本単元は、今までの学習を活用しながら直接的に「エネルギー」という用語を用いながら学習を進めることができる単元である。

(2) 生徒観

⑭学習に対しての学習集団の特徴について記述してある。

本学級は、33名の生徒が在籍している。第1学年のときから仮説を立てて観察、実験を計画する学習場面を設けてきたこともあり、観察、実験を計画し実行する学習に対して意欲的に取り組む生徒が多い。しかし、個人では思考することに苦手な意識をもっている生徒が多い。

生徒は、「エネルギー」についての学習を行ってきたが、「エネルギー」という用語を直接

⑫子どもの実態（レディネス）が記述してある。
⑬単元に関わるこれまでの学習履歴が記述してある。

用いた学習をあまり行ってきていない。そのため、エネルギーを抽象的な概念で捉えている生徒が多い。また、力学的な「仕事」と日常的に用いる「仕事」を混同して捉えている生徒もいる。「仕事」という用語は日常の生活の中で一般的に「人がはたらくこと」として使われているため、物体がする力学的な「仕

事」を捉え難くしている。このように、「仕事」や「エネルギー」を抽象的に捉えている生徒は、「エネルギー」と「仕事」の関係を見いだすことについて困難さが増すことが考えられる。

(3) 指導観

本単元は、生徒が理科の見方・考え方を働かせ

⑩学習形態、学習過程、教師の支援のポイントなどについて指導者の意図的な活動が記述してある。

ながら、探究の過程全体を主体的に遂行できるように進めていく。そのために、単元の導入では生徒がこれまで学習してきた既習内容と関連付けながら日常生活の中で起こっている「仕事とエネルギー」に関連する現象を観察し、疑問をもてるようにする。そして、生徒がその疑問から課題を設定できるようにする。次の学習から、設定した課題を解決するための学習活動を進める。その学習の過程においては、導入で生徒がもった疑問を1つずつ解決できるようにする。そして、最終的には設定した課題についての結論を生徒自身が導き出せるようにしていきたい。また、探究の過程を生徒自身が振り返ることができる時間を適宜設けるようにする。

本時は、導入において設定した課題を解決するための実験の

⑪単元全体の指導に合わせ、本時の指導が具体的に記述してある。

計画を立案する場面に当たる。まずは、既習の内容である「仕事」と「力学的エネルギー」のそれぞれについて確認する。次に、この2つを比較することで本時の課題を設定し、探究を進められるようにする。この課題について調べる実験を計画するためには、仮説を設定することが欠かせない。そこで、変化させる要因（独立変数）と変化する要因（従属変数）に着目しながら「～を…すれば、〇〇になる。」のように仮説を設定できるようにする。また、この仮説に基づいて実験を計画する際には、条件制御するという考え方に着目できるようにする。

実験を計画する班は、仮説が同じ生徒を集めて編成する。仮説が同じ生徒による班を編成することで、生徒の一人一人が計画した実験を行うことができ、意欲的な活動となることが期待できる。

このような学習活動を通して、生徒が自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成していきたい。

5 単元指導計画（全15時間 本時6/15）

⑬学習活動は学習指導要領の該当箇所を根拠に具体的に示されている。

次	時	主な学習活動	評価		
			重点	記録	評価規準 [評価方法]
1	1~4		略		
2	5	・物体に力を加えて移動させたときに力が物体に対して行ったことが仕事であることを説明する。	知		力学的エネルギーの大きさは物体がされる仕事によって決まることを理解している。 [観察、ワークシート]
	⑥	・仕事と力学的エネルギーの関係を調べる実験を条件制御しながら計画する。	思	○	仕事と力学的エネルギーの関係を調べる実験を条件制御しながら計画しようとしている。 [観察、実験の計画書]
	7	・実験の結果を記録する。 ・実験の結果を整理し、グラフにまとめる。	知	○	仕事と力学的エネルギーの関係を調べる実験を行い、結果を記録している。 [観察、実験の計画書]
	8	・力学的エネルギーと仕事の関係を見いだして説明する。	思	○	力学的エネルギーと仕事の関係を見いだして説明している。 [観察、ワークシート]
	9	・滑車を使用するときの仕事の大きさを調べる実験を行い、規則性を見いだす。	思		道具を利用するときの仕事を調べ、実験の結果から規則性を見いだしている。 [観察、ワークシート]
	10	・二人の人が行った仕事の能率について推測し、仕事を比較する。			仕事の原理と仕事率について説明している。
3	11~15		⑭評価規準は、生徒が目標を達成した具体的な姿を設定している。 ⑮評価方法が、(観察)(ワークシート)等として具体的に見取ることができるもので明記されている。		

6 本時の学習

(1) 目標 (ねらい)

仕事と力学的エネルギーの関係を調べる実験を条件制御しながら計画することができる。

②4 単元指導計画と整合性が取れている。

(2) 展開

③0 生徒の予想される反応に対する支援が記述してある。

時	学習活動と予想される生徒の反応	教師の支援（・）と評価
5分	1. 「力学的エネルギー」と「仕事」とは何かを確認する。 ・「力学的エネルギー」は、位置エネルギーと運動エネルギーの和である。 ・「仕事」の大きさは、物体に加えた力の大きさと力の ②8 各学習活動にかかる時間が記してある。	・前時のまとめで子どもがかいた個人用ホワイトボードを提示する。 ・「力学的エネルギー」と「仕事」について説明されているヒントカードをとってよいことを伝える。
2分	2. 学習の課題を確認する。 仕事と力学的エネルギーには、どのような関係があるのだろうか ～関係を調べるための実験を条件制御して計画しよう～	・視覚的に課題を示すようにする。
10分	3. 仮説を立てる。 ・高さが高くするほど仕事が大きくなる。 ・速さが速くなるほど仕事が大きくなる。 ・力が大きくなるほど仕事が大きくなる。	・変化させる要因（独立変数）と変化する要因（従属変数）に着目しながら仮説が設定できるようにワークシートを使用する。
3分	4. 選択した仮説が同じである生徒同士で班を編成する。 ②7 主な発問を設定し、それに対する生徒の予想される反応が記述してある。	②9 文末は生徒が主語になり「～について考える。」「～について話し合う。」などの表現になっている。
15分	5. 実験の方法を考える。 ・垂直に金属を落下させてくいを打ち込む実験 ・斜面から小球を転がして木片に当てる実験 ・水平に台車を運動させてものさしに当てる実験	・ヒントカードをとったり、理科室にある実験器材を使ったりしてもよいことを伝える。
5分	6. 実験の方法を発表し、学級全体で課題について検証可能であるかを考える。 ・小球の高さを変えて実験する必要がある。 ・速度計を用いて速さを計測する必要がある。 ・台車の質量を変えて実験する必要がある。	・個人用ホワイトボードを用いて説明してよいことを伝える。 ・実際に実験する器材を用いて説明してもよいことを伝える。
5分	7. 班で実験の計画書をまとめる。 ・小球の高さを規則的に変えて実験を行う。 ・速さ以外の条件を変えないように実験を行う。 ・台車の質量以外の条件は変えないで実験を行う。	評価の観点【思考・判断・表現】 仕事と力学的エネルギーの関係を調べる実験を条件制御しながら計画している。 [評価方法：観察、実験の計画書]
5分	8. 学習を振り返る ②6 見通し・振り返りが設定されている。 ・仕事の大きさを変化させる要因に着目しながら仮説を設定することができた。 ・一人では難しかったが、班で相談することで台車の質量だけを変えて質量によって仕事の大きさがどうなるかを調べる実験を計画することができた。	仮説を設定することができたか、条件を制御して実験を計画することができたかについて振り返るように伝える。 ・次の時間は計画した実験を実施し、その結果について考察し、結論を導出する学習を行うことを伝える。

(3) 評価

③8 十分満足できる状況にするための手立てが記述してある。

十分満足できると判断される状況	概ね満足できると判断される状況	支援を要する状況への手立て
仕事と力学的エネルギーの関係を調べる実験を的確に条件制御するとともに適切な実験装置を用いて行うように計画している。 (さらに力を伸ばすための手立て) 計画した実験の方法が妥当なのかを検討するように伝える。また、実験の手順を検討するように伝える。	仕事と力学的エネルギーの関係を調べる実験を的確に条件制御しながら計画している。 (十分満足できる状況にするための手立て) 計画した実験は的確に条件制御できているかを確認するように伝える。また、どのような実験装置を用いるのかを検討するように伝える。	仕事と力学的エネルギーの関係を調べる実験を計画するためのヒントカードを参考にしたり、実験器材に触れたりしながら計画できるように支援する。

第1学年〇組 家庭基礎学習指導案

※丸数字は「学習指導案の見方・指導のポイントチェックリスト」の番号に対応する。

- ①学習のねらいや内容が一目でわかるように明記
- ②「単元名」または「題材名」等と教科、領域に応じて表記
- ③「単元名」等と「教材名」を混同しない

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇) 第〇限
 指導者 〇〇〇〇
 場 所 〇〇教室

1 単元名 成年として自立した経済生活を営むには
 「家庭基礎」内容C 持続可能な消費生活・環境 (1)ア及びイ、(2)ア及びイ

- ④学習指導要領や各教科等の学習指導要領解説を参考に記述
- ⑤学習を通して目指す児童生徒の姿を簡潔に記述

2 単元の目標

- (1) 自立した生活を営むために必要な家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理、消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解するとともに、生活情報の収集・整理が適切にできる。
- (2) 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について、問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして、課題を解決する力を身に付ける。
- (3) 様々な人々と協働し、より良い社会の構築に向けて、生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することについて、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。

- ⑦「概ね満足できる」状況が設定
- ⑧単元目標を踏まえて具体的に設定
- ⑨「～しようとしている。」「～している。」等の生徒の状態を示す文末表現

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解している。 ・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解するとともに、生活情報を適切に収集・整理できる。	生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することについて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

4 単元について

- ⑩学習指導要領に示された目標や内容との関連の記述
- ⑪単元や教材のもつ教育的意義や他教科・領域、実生活等との関連

(1) 教材観

本単元は、高等学校学習指導要領（平成30年告示）「家庭基礎」の「C 持続可能な消費生活・環境」の(1)「生活における経済の計画」ア及びイと(2)「消費行動と意思決定」ア及びイとの関連を図っている。

民法改正により、令和4年4月1日から18歳成年となったことを踏まえて、単元のはじめに、成年になると何がかわるのかを理解するとともに、自分の生活を想起して財やサービスの購入や消費行動の課題を設定し、「生活における経済の計画」や「消費行動と意思決定」に関わる知識及び技能を身に付け、課題を解決する力を養い、自立した消費者として適切な意思決定に基づいた責任のある消費行動を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成することをねらいとしている。

小学校において、買い物や消費者の役割、中学校において、金銭の管理、物資・サービスの選択と購入、売買契約と消費者被害、消費者の権利と責任について学習しているが、消費者被害の低年齢化に伴い、消費者被害の回避や適切な対応が一層重視されることから、自立した消費者になるために必要な知識や技能を確実に定着させる必要がある。問題解決的な学習に取り組む中で、習得した知識や技能を活用し、批判的な思考を働かせて適切な意思決定を行う力を身に付けることができる大変有意義な単元である。

- ⑭学習に対する学級集団の特徴の記述

(2) 生徒観

本学級の生徒は、37名から構成されている。家庭科の学習では、3～4名のグループを作り、実習や話し合い活動を取り入れている。話し合い活動においては、ジャムボードを活用することが多いが、お互いの意見を共有し、活発に話し合いを行うことができる。

本学年は、3年時の誕生日には「成年」となる生徒たちである。既習単元である「自分らしい人生をつくる」においても、そのことを意識する様子が見られた。一方で、高額な契約ができるようになることや、契約の取消し権がなくなることなど未成年と成年の違いを知っている生徒はいない。

- ⑫単元に関わる生徒の実態の記述
- ⑬単元に関わるこれまでの学習履歴

また、悪質商法等については、中学校でも学習しているが、自分自身の生活と結びつけて考えることはできていない。消費者としての自覚がまだ、なかなか身につけておらず、社会の目線から見て消費生活が不安定である。

⑯教材教具、学習形態、学習過程、教師の支援のポイントなどについて指導者の意図的な活動の記述
⑰単元全体の指導に合わせ、本時の指導の記述

(3) 指導観

成年年齢引き下げは、消費者の立場としても大きな変化である。社会の変化が自身の将来に影響を及ぼす可能性を知ることで、消費者として自覚を持つ必要性を理解させたい。そこで、できる限り身近な事柄を取り上げることや、実践的・体験的な学習活動を取り入れることで当事者意識を育みたい。また、これまでの18歳よりも責任の重い18歳になることを認識させることで、今後の消費生活領域の学習に対する意識を高めたい。

第1～7時間目は、契約、家計管理など、生徒にとって身近な消費場面や消費行動を取り上げ、実践的・体験的かつ問題解決的な学習を通して、自立した消費者になるために必要な知識や技能を習得・活用する。『社会への扉（消費者庁）』や消費者被害防止リーフレット等、既存の教材を活用しながら、生徒がより具体的に考えることができるようにする。また、社会人になった時のことを想定し、給与明細を用いて、可処分所得や非消費支出など家計の構造やバランスについてシミュレーションしたり、若者に起こりやすい消費者トラブルを取り上げ、その背景や問題点について取り扱いつつ、自立した消費者に必要な知識や技能は何かを問い、これからの自分の生活や将来につなげて行動できるようにする。

第8～10時間目は、第1～7時間目に取り上げた内容を活用・応用し、自らの実践や行動に結び付けていく学習を行う。本時はその1時間目に当たる。県内の消費者センターに寄せられている実際の消費者相談を参考に、悪質商法やクレジットカードも含めた契約トラブルなど若者に多い消費者被害の事例をグループごとに割り当て、事例検討を行う。2時間目に各グループが担当した事例の発表を行い、それぞれの消費者被害の問題点や対応策を共有し、共通点をまとめさせることで、消費者被害を未然防止するための原理・原則に気づかせたい。グループで課題解決する際には、全員が参加できるように、まず個人で考え自分の考えを持ち、その後グループで意見を出し合うようにする。その際、意見が出しやすいように、ジャムボード等を活用して、グループの意見や考えをまとめやすくする。グループ活動をすることにより、自分では気付かなかった問題を発見し、多様な解決策・対応策を創出し、よりよい生活の実現に向けて実践できる力を育みたい。

各授業の終了時には、その日の授業で学んだことを踏まえて振り返りのテーマを示し、自分の考えをまとめ、表現させる。学習を振り返らせることで学習の意味づけを行うとともに、本単元を通じた生徒の変容を見取りたい。

⑱目標や学習活動は学習指導要領の該当箇所を根拠に具体的に表現

5 指導と評価の計画（全10時間 本時8/10）

⑲学習活動の流れに具体性と必然性がある
⑳実際に学ぶ学習活動を具体化した表現で記述

次	目標	時	主な学習活動	重点	認識	評価規準・評価方法
1	自立した消費者をめざして自分の消費生活について問題を見だし、課題を設定することができる。	1	・成年になると何ができるようになるのか、生活にどのような変化が生じるのかについて話し合い、自立した消費者になるための消費生活の課題を設定して学習の見通しを持つ。	思		・生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費意思決定に基づいて、問題を見いだして課題を設定している。 (ワークシート)
			【単元全体を貫く課題】成年として、健康・快適・安全で、持続可能な自立した消費生活を営むためには、何がどのようにできるようにすればよいのだろうか。			
			【振り返り】成年になるとどのような責任が生じるか考える。			
	消費行動における意思決定や契約の重要性について理解することができる。	2	・様々な契約の事例から、契約とは何かを理解する。 ・契約に関わるトラブルについて事例をもとにその背景や問題点を話し合い、未成年と成年の違いを考える。 【振り返り】契約に関わるトラブルは、どのようなところに生じるか考える。	知	★	・契約するときの注意点、契約における未成年と成年の法律上の責任の違いについて理解している。 (ワークシート、定期考査)
				態		・自らの消費行動における意思決定や契約の重要性について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 (振り返り)
	消費者保護の仕組みを理解することができる。	3	・若者に多い契約トラブルの現状と課題、救済方法、契約のキャンセルの可否についての法制度を理解する。 【振り返り】ネットショッピングをするときの注意点を考える。	知	★	・契約がキャンセルできる場合や、キャンセルの方法を理解している。 (定期考査)
				態		・自らの消費行動における意思決定や契約の重要性について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 (振り返り)

※記録に残す評価

㉑目標を達成した具体的な姿を設定

㉒評価方法を明記

	家計の構造、家計管理について理解し、ライフステージと関連付けた経済計画を考えることができる。	4	・給与明細や平均的な1ヶ月の生活費をもとに、家計の構造を理解する。	知	★	・給料の仕組みや家計の構造について理解している。 (ワークシート、定期考査)
		5	・家計のシミュレーションからライフイベントや不測の事態に備えた生涯を見通した家計管理の重要性に気付く。 【振り返り】ライフイベントにおいて、どれくらいの支出が必要なのかを知り、それに備えた計画を考えよう。	思 態	○	・生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージと関連付けて、課題の解決に向けて考え、工夫している。 (ワークシート) ・生涯を見通した経済の管理や計画の重要性について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 (振り返り、行動観察)
	キャッシュレス決済の特徴やクレジットカードの仕組みなど多様な契約について理解し、計画性のある使い方・合理的な使い方を考えることができる。	6	・多様な契約の仕組みや使い方を理解する。	知	★	・多様な契約の仕組みや使い方を理解している。(ワークシート、定期考査)
		7	・様々なキャッシュレス決済のメリットとデメリットについて考え、キャッシュレス決済のトラブルとその原因を考える。 ・キャッシュレス決済を利用するときの注意点を考える。 【振り返り】キャッシュレス決済のトラブルに遭わないための心がけや行動を考える。	思 態	★	・自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することについて問題を見いだして課題を設定し、課題の解決に向けて考え、工夫している。(定期考査) ・キャッシュレス化の進行による家計管理や計画の重要性について、課題の解決に主体的に取り組む、解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。(振り返り、行動観察)
2	若年者に多い消費者被害について、トラブルが起こる背景や問題点、消費行動における意思決定の重要性について消費者の権利と責任と関連付けて理解し、トラブルの対応策について考えることができる。	8 時	・グループに割り当てられた消費者被害の事例について、情報を収集し、トラブルの原因等について分析する。 ・消費者の権利と関連付けて適切な対応の仕方について考えて、話し合う。 【振り返り】9時間目と同じ	知 知	★	・若年者に多い消費者被害について、トラブルの概要や問題点、被害防止策に関する情報を適切に収集・整理している。(ワークシート、スライド) ・消費行動における意思決定の重要性について、消費者の権利と責任と関連付けて理解している。(定期考査)
		9	・各グループが担当した事例についての分析を、クラスで共有し、共通点を見いだす。 ・グループごとに消費者被害を防ぐための方法を考え、発表する。 ・発表をもとに若者に多い消費者被害を未然に防ぐための共通ポイントについてまとめる。 【振り返り】消費者被害に遭わないために気をつけることをまとめる。	思 態		・自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することについて、実践を評価したり改善したりしている。 (ワークシート、ジャムボード) ・消費行動における意思決定や契約の重要性について、課題の解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。(ワークシート、振り返り)
	自立した消費者として適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について考え、工夫することができる。	10	・消費者トラブルの事例についての問題解決に取り組む。 ・自立した消費者になるために、今、自分にできることを考え、行動目標を立てる。	思 態	○ ○	・自立した消費生活を営むために、家計の管理や計画、適切な意思決定に基づいて行動することなどについての課題の解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。(レポート) ・自立した消費者として消費者の権利と責任や消費者問題に関心をもち、適切な意思決定に基づいて行動することについて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上に向けて実践しようとしている。 (レポート、振り返り)

②評価の観点は1つ程度
※本指導案では「主体的に取り組む態度」は【振り返り】を用いて単元全体を通して評価するため2つ設定している

○：「記録に残す評価」 ★：定期考査により「記録に残す評価」

6 本時の学習

(1) 目標 (ねらい)

②4 単元指導計画の目標との整合性

②5 目標は資質・能力別に記述

若年者に多い消費者被害について、トラブルの概要や問題点、被害防止策に関する情報を適切に収集・整理することができるとともに、消費行動における意思決定の重要性について、消費者の権利と責任と関連付けて理解することができる。

(2) 展開 ⑳学習活動にかかる時間

時間	学習活動と予想される生徒の反応	教師の支援（・）と評価
5分	1. 本時の学習課題を確認する。 ①前回の学習内容を振り返る。 ②本時の学習課題を確認する。 ・若者が狙われやすい悪質商法を理解する。 ・悪質商法等の被害にあった場合の対処策を考える。 ㉔見通しが設定されている	・本時の見通しが持てるように授業の流れを提示する。 ㉓子どもの予想される反応に対する支援の記述 ㉑概ね満足できる状況にするための支援の記述 ㉒教材や資料の使用場面や使用方法の記述 ㉕「～を知らせる。」「～するようにする。」等の文末表現
10分	悪質商法の被害に遭わないためには、どのようにすればよいのだろうか。 2. 県内の消費者センターに実際にあった消費者相談の概要から、若者が狙われやすい悪質商法の事例を知る。 ワンクリック請求、マルチ商法、デート商法、ネットショッピング など 3. なぜ18歳が悪質商法のターゲットにされるのかについて考える。 →知識がない。だまされやすい。被害に遭っても対応できない。未成年でなくなる。「未成年者取消権」が使えない。	・県内の最新の消費者相談の概要を伝えることで、消費者被害を自分事として捉えられるようにする。 ㉗主な発問と予想される生徒の反応の記述 ㉙「～について考える。」「～について話し合う。」等の文末表現
30分	4. 2の事例を含め、最近多い9つの消費者被害の事例についてグループごとに調べたり話し合ったりして、スライドにまとめる。 ①概要 ②問題点 ③解決策や対応策 ④被害に遭わないために注意すべきこと ㉖振り返りが設定されている	・未成年と成年の法律上の違いを思い出すよう働きかける。 ・各グループが担当する消費者被害の事例について、国民生活センターや消費者センターなど消費者行政のホームページから情報を得るよう伝える。 ・意見を出し合う際にはジャムボードを利用してよいことを伝える。 ㉓評価規準と評価方法の記述 ㉔本時の目標との整合性
5分	5. 本時の学習の振り返りをする。 ・今日学習したことを踏まえて、今日のテーマについての自分の意見を記入する。 →友人からの誘いでも安易に乗らずに、きっぱりと断るようにしたい。 クレジットカードの作成は、就職して収入を得られるようになってからにする。 おかしいと感じたらすぐに返事をせずに、信頼できる大人に相談する。 契約に関わる法律を勉強しておく。 被害に遭ったと思ったら、すぐに消費者センターに相談する。 6. 次回の学習の見通しをもつ。	評価の観点【知識・技能】 ・若年者に多い消費者被害について、トラブルの概要や問題点、被害防止策に関する情報を適切に収集・整理している。 （評価方法：ワークシート、スライド） ・消費行動における意思決定の重要性について、消費者の権利と責任と関連付けて理解している。 （評価方法：定期考査） ・自分のグループが調べた事例をもとに、悪質商法の被害に遭わないためには、どのようにすればよいかを考え、振り返りシートに記入するよう伝える。 ・発表の仕方を説明し、役割分担をしておくよう伝える。

(3) 評価 ㉓単元指導計画の評価規準の内容との整合性
 ㉔評価基準の具体的な記述

十分満足できると判断される状況	概ね満足できると判断される状況	支援を要する状況への手立て
信頼できる情報を適切に収集し、消費者、販売者のそれぞれの立場から多角的に事例を検討することができる。 消費行動における意思決定を行う場面で、売買契約の原理原則を踏まえて、法律にも触れながら批判的・分析的に考え、判断できる。 消費者被害に遭ったときの相談先を理解していることに加え、相談することが消費者の安心・安全な暮らしにつながることを理解している。	信頼できる情報を適切に収集し、事例を検討することができる。 消費行動における意思決定を行う場面で、売買契約の原理原則を踏まえて判断できる。 消費者被害に遭ったときの相談先を理解している。 （十分に満足できる状況にするための手立て） 事例検討は様々な立場から行うよう促す。意思決定を行う場面では法律にも触れて、根拠や理由を明確にして判断するよう促す。	国民生活センター、消費者センターなど消費者行政のホームページを閲覧して事例検討に必要な情報を収集するよう伝える。 意思決定を行う場面ではワークシートを見返して、契約の成立条件、消費者保護の仕組み等と関連付けて考えるよう促す。

㉓「十分満足できると判断される状況」にするための手立ての記述

学習指導要領には、各教科等において「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養という、資質・能力の三つの柱の育成がバランスよく実現できるよう留意することが示されており、知的障がい特別支援学校の各教科等についても、学びの連続性の視点から、同様に整理されている。また、「各教科等を合わせた指導を行う場合においても、各教科の目標に準拠した評価の観点による学習評価を行うことが必要である」とあり、各教科等を合わせた指導においても、三つの柱の観点で、育てたい資質・能力を整理し、評価につなげていく必要がある。

このことを踏まえ、ここでは各教科等の評価規準を取り入れた各教科等を合わせた指導のサンプル指導案を示している。このサンプル指導案での評価規準は次のように捉えている。

評価規準

- ・単元の目標の達成に向けて、各教科等で児童生徒につけたい力について、学習指導要領を基に3観点で記述する。（高等部については、R4～年次進行での実施に留意すること。）
- ・各教科等を合わせた指導は幅広い内容を取り扱うのであらゆる教科等に関連することが多いが、**目標として取り扱う教科等であるかどうかを十分に吟味する。**
- ・児童生徒が複数在籍する場合、実態の幅広い特別支援学校や特別支援学級の状況から、児童生徒すべての「概ね満足できる」状況として表すことは難しいと思われる。よって、本単元を通して個々の児童生徒の観点別学習状況を評価するための質的なよりどころや視点を示す内容とする。

* 丸数字は「生活単元学習指導案の見方・指導のポイントチェックリスト」の番号に対応する。
★は、それ以外の記入のポイントについて記述している。

小学部5年1組 生活単元学習 学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日（〇）〇校時

★ 小中学校では指導者が複数の場合は、「T1、T2」「支援員」等と表すことが多い。

指導者 CT〇〇〇〇

AT①〇〇〇〇 AT②〇〇〇〇

場 所 〇〇教室、〇〇〇教室

- ① 学習のねらいや内容が一目で分かるよう明記する。
- ② 実際の生活や学習に関連した、児童生徒にとって分かりやすい単元名を設定する。

1 単元名 「1くみわくわくまつりをしよう」

- ③ 学校教育目標とのつながりを考慮し、生活単元学習としてめざしたい姿として（例えば「見通し」「課題解決」「意欲」「かかわり」等の視点で）記述する。
- ④ 単元全体を通して、目指す児童生徒の姿について簡潔に記述する。

2 単元の目標

- ・お楽しみ会などの経験を活かし、見通しをもちながら活動する。
- ・みんながおまつりを楽しむことができるようにお店について考えたり工夫したりする。
- ・いろいろな友達や教師とかかわり、思いや考えを伝えあいながら活動する。

- ⑥ 単元で目標として取り扱う各教科等の学習集団としての各観点の評価規準が、単元目標を踏まえて具体的に設定されている。
- ⑦ 文末は「～しようとしている。」「～している。」等の児童生徒の状態を表す表現にする。
- ⑧ 学習指導要領に示された資質・能力を踏まえて、単元の活動に応じた表現で記述する。児童生徒の実態が幅広い集団の場合は、上の段階の資質・能力を基準として設定することも考えられる。
- ★ 自立活動については、個別の目標であるので、ここには記述しない。
- ★ 特別活動の評価規準を表す場合は、学習指導要領に示された特別活動の目標及び内容を踏まえ、自校の実態に即し作成した観点を記述する。（＊小・中学校については、特別活動は合わせた指導として取り扱えないので注意する。）
- ★ 道徳については、この単元で目標として取り扱う内容項目について記述する。

3 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む態度
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・お店担当の役割を果たすための知識や技能を身につけている。 (カ：役割) 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなが楽しめるおまつりになるように考えたり工夫したりしながら、進んで自分のお店の準備や店番の役割を果たそうとしている。 (カ：役割) 	<ul style="list-style-type: none"> ・1くみわくわくまつりの活動を通して、身近な人に自ら働きかけたり、進んで学習に取り組もうとしたりしている。
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・お店担当として必要な言葉がけややりとり気付いている。 (ア (ア)) 	<ul style="list-style-type: none"> ・お客さんに楽しんでもらえるような言葉がけややりとりを考えている。 (A聞くこと話すことウ) ・「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」等のあいさつをしている。 (A聞くこと話すことエ) ・相手に伝わるよう、声の大きさに気をつけて話している。 (A聞くこと、話すことオ) ・おまつりに必要な事柄について、ちらしや表示に簡単な語句や文で表している。 (B書くことウ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に友達や教師に言葉を通して伝え合おうとしている。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・お店の表示や看板を作りながら、材料のよさや特徴に気付いている。 ・いろいろな材料や用具を用いて、工夫しながらお店の表示や看板などを作っている。 (A表現) [共通事項ア (ア)] 	<ul style="list-style-type: none"> ・おまつりをイメージしながら、作りたいたいお店の表示や看板などを思い付いたり、思いに合った材料や色を選んだりしている。 (A表現) [共通事項ア (イ)] 	<ul style="list-style-type: none"> ・つくりだすことの楽しさに気づき、進んでおまつりに必要な物づくりに取り組もうとしている。

*自立活動の目標については、6－(2)に記載

*「単元の評価規準」に替えて、このように表記する場合もある。

3 目標として取り扱う教科

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
生活	カ役割	カ役割	ウ
国語	ア (ア)	A聞くこと、話すことウエオ B書くことウ	ウ
図工	A表現 [共通事項ア (ア)]	A表現 [共通事項ア (イ)]	ウ

★ 段階目標ウを参考に作成するため、「ウ」と記入する。

⑨ 単元の目標や内容にかかわる児童生徒の実態を記述する。
★ 個別の指導計画や学級経営案等も踏まえて記述する。

4 単元について

(1) 児童観

本学級は、5年生5名で構成されている。知的障がい特別支援学校の小学部各教科1段階～3段階の内容を学習している。2学期になり、友達の様子を目で追ったり、休憩時間に友達を遊びに誘ったりと、学級の仲間を意識しながらかかわる姿が増えてきている。これまでに自分たちが経験した遊びを繰り返す姿が多いが、学習の中で行って楽しいと感じた遊びを休憩時間にも取り入れようとする姿も見られる。

表情や発声、タッチ等で自分の思いを表す児童や、経験したことや思ったことを言葉で伝える児童など、実態は様々であるが、それぞれが自分なりの手段で伝えようとする姿がある。書くことについては、経験したことなどを簡単な文で表す児童もいる。しかし、相手の思いを聞くこと、相手に伝わるように分かりやすく話したり伝えたりすること等にはまだ意識が十分でなく、うまくやりとりが続かないことも多い。

創作活動では、それぞれに好きな素材や色があり、経験したことを絵などで表すことが好きな児童が多い。図画工作では、筆やはさみ、のこぎり、かなづちなど様々な道具を扱う経験もしている。視覚認知の弱さや両手の協調動作に困難さがあり、道具の操作などに難しさがある児童もいる。

1学期には、生活単元学習でお楽しみ会の活動に取り組んだ。1回目は、自分たちのやりたい遊びに教師の提案した内容も加え、遊びに使う道具を作りながら、いくつかの遊びを行った。2回目は遊びコーナーを自分たちで担当して、参観日に保護者を招き一緒に楽しんだ。身近な人に思いを伝えながら、自分の仕事の役割を果たし「楽しかった。」と喜んでもらえたことが、達成感につながったようである。教師の支援を受けながらも、繰り返しの活動の中で見通しをもち、友達や教師とかかわりながら、自分の役割を意識して、目的のために必要なことを考えたり、準備したりすることが少しずつできつつある児童たちである。

⑫ 児童生徒にとって単元のもつ教育的意義や他教科・領域、実生活等との関連を記述する。
⑬ 学習指導要領に示された各教科等の目標や内容との関連が記述してある。

(2) 教材観

本単元は、1学期に行ったお楽しみ会を発展させた内容である。参観日で保護者に喜んでもらえたことで、児童たちから、「もっとお客さんをよんでおまつりをしたい」との声があがった。児童たちは、例年地域の公民館まつりに参加している経験があり、おまつりに楽しいイメージをもっているようである。これらのことから、日頃かかわっている校内の友達や教師を招いて『おまつり』は、より児童たちの活動に対する目的意識が高まり、主体的に課題解決しながら学習に向かう姿が期待できる単元である。

おまつりは3つのお店（ボーリング屋さん、とんとんずもう屋さん、トランポリン屋さん）を設定する。このお店は、1学期のお楽しみ会で行った遊びをもとに設定されているため、活動に見通しをもちやすく、自分の役割を意識しながら自らの力で必要なことを考え、準備していく姿が期待される。今回はそこに、「たくさんのお客さんに楽しんでもらうためにどうしたらいいか」という視点での工夫も加えることで、生活科の、より高学年らしく、自分の役割を果たそうとする資質・能力を育成することができるのではないかと考える。お店に必要なものを準備する活動では、図画工作科の意欲的に自分なりのお店のイメージをもちながら表現する資質・能力を育成できる。また、いろいろな人とかかわりを楽しみながら、これまでの国語科で学んだ「相手に伝わりやすい話し方」について体験を通して深めていくことができ、より相手を意識しながら話したり伝えたりしようとする資質・能力の育成も期待できると考えた。

加えて、いろいろな人とかかわるおまつりやチラシ配りの活動、お店に必要な物をつくる活動は児童の自立活動のねらいの達成にもつながる。

1学期の学習を発展させ、友達や教師と一緒に考えたおまつりを通じて、身近なたくさんの人に喜んでもらうことで、さらなる達成感や自信にもつなげることができる単元である。

- ⑭ 児童生徒の実態に応じて目標を達成するための支援、教材教具、学習形態、学習過程など、指導者の意図的な活動について記述する。
 ⑮ 単元全体の指導に合わせ、本時の指導について具体的に記述する。

(3) 指導観

見通しをもって主体的に活動に取り組むことができるように

毎時間の流れは決めておき、自分から活動に向かうことができるようにする。また、めあてと流れを掲示するとともにワークシートを用意することで、本時に行うことが明確に分かるようにする。教員は各グループにつくが、児童主体で活動を進めることができるように、基本的には見守り、必要に応じて実態に添った支援を行うようにする。

「お客さんが楽しめるおまつり」への気づきや工夫につながるように

第2次で実際に公民館まつりに参加することで、お客さんを招くおまつりへの具体的なイメージをもつことができるようにする。児童の活動内容としては、「おみせのひみつをさぐるう」のミッションのもと、お客さんが楽しむためのお店の工夫をタブレットで撮影し、気づきをその後の活動に活かすことができるようにする。その際、「お店の人、なんて言ってる?」「お店の周りにはどんなものがあるかな?」等、お店の人の言動や掲示等に注目できるような言葉がけをする。

また、毎時間動画による振り返りを行うことで、友達や自分のよい点や改善点への気づきにつなぐことができるようにしたい。

いろいろな人とかかわり、伝え合う喜びを感じられるように

児童によっては、役割に応じた話し方について学習する中で一緒に「せりふカード」をつくり、必要に応じて活用できるようにする。また、おまつりに招く校内の教職員には、事前に児童の実態やねらいを情報共有しておき、前向きな言葉がけ、新たな気づきにつながる言葉がけをしてもらい、児童の意欲やより深い思考へ結びつけられるようにする。E児については、興味に合わせて遊び方を広げたり、担任が身近な教師や友達に本児との関わり方を伝え、好きなトランポリンをいろいろな人と楽しんだりできるようにする。

本時は、各グループで、本番を意識しながらお店の準備や練習を行う。できるだけ自分たちの力で準備できるよう児童主体で行うが、より当日のイメージをもって準備できるように、グループによってはATがお客さん役になり、気づきにつながる言葉がけをする。E児については、より本番に近いイメージで活動できるよう、他学級のかかわりのある教員にお客さん役となってもらう。

- ⑯ 評価の計画は、学習指導要領の該当箇所を根拠に具体的に示されている。
 ⑰ 単元目標を達成するための学習活動の流れに具体性と必然性がある。
 ⑱ 各教科等の評価の観点を各時1～2つ程度に焦点化して記述する。
 ⑳ 自立活動については、児童生徒名と区分について記入する。ここでは特に目標として取り扱うものについてのみ記入する。そのため、児童生徒によっては目標に挙がらない場合もある。
 ㉑ 幅広い実態の児童生徒が複数在籍する場合は、「3単元の評価規準」と同様に、一部の児童生徒にかかわる教科や観点についても記入する。

5 単元指導計画（全19時間 本時9、10／19時間）

次	時	主な学習内容	評価の計画			
			生活	国語	図工	自立活動
1	1、2	○「わくわくまつり」の計画を立てる ・1学期の活動を思い出しながら、内容や招待する人、役割を決める。	○ 思			
2	3、4	○お店の準備をする ・それぞれのお店に必要なものを考える。 ・お店担当としての言葉や台詞を教師と一緒にまとめる。	○ 知	○ 知		

	5、6	・公民館まつりに参加し、お客さんが楽しむための工夫（役割や表示、言葉がけなど）を探し記録する。	○ 知	○ 知		
	7、8	・グループで、お店に必要なものや表示を考え、作成する。			○ 知 思 主	D (環・身)
⑱ 児童生徒が実際に行う活動を具体化した表現で記述されている。						
	⑨、⑩ (本時)	・グループでお店の準備や練習をする。 (お店担当としてのやりとり、道具の設置、表示や看板づくりなど)	○ 思	○ 思	○ 思	D (環・身)
3	11、12	○「わくわくまつり」の宣伝に行く ・おまつりのチラシづくりをする。 ・招待する教師や友達に、チラシを配りに行く。			○ 思 主	A (人・コ) E (心・コ)
	13、14	○リハーサルをする ・練習したことを思い出しながら、本番と同じようにお店の練習をする。 ・振り返りをする。	○ 知	○ 思		
4	15、16 17	○「わくわくまつり」をする ・校内の教師や友達を招き、各グループでお店の運営をする。	○ 知	○ 思		A (人・コ) E (心・コ)
5	18、19	○振り返りをする	○ 主	○ 主		

6 本時の学習

⑳ 単元指導計画と整合性がとれている。

㉑ 「2 単元の目標」から、生活単元学習で目指したい姿としての視点で目標を設定する。

(1) 目標

・友達や教師とかかわりながら、お客さんを意識してお店の準備や練習をする。

㉒ 本時の目標に関係する個々の実態を記述する。

㉓ 単元の評価規準（または取り扱う教科の学習指導要領に示される内容）と照らし合わせながら、教科等と目標は観点ごとに設定する。

㉔ 本時で目指す姿を、できるだけ具体的な児童生徒の姿で記述する。
(「積極的に協力しながら準備することができる」→「考えたことを友達にアドバイスしたり、友達の意見を求めたりしながら準備する」等)

★ 教科等と観点については、児童生徒それぞれで異なる場合がある。

(2) 個別の目標

児童名	実態	目標
A	・お店のルールやゲームの手順を理解している。 ・教師や友達に話をするのが好きで積極的に話しかけるが、自分の思いが先に立って、相手に話が伝わりにくいことがある。	・考えたことを友達にアドバイスしたり、友達の意見を求めたりしながら準備しようとする。(生活) ・せりふカードを使い、お客さん役の教師の様子に合わせて、伝わりやすい声の大きさでお店の説明をする。(国語)
B	・目印を意識してボーリングのピンを設置したり、玉を拾って所定の位置に置いたりすることができる。	・お客さん役の教師がボーリングをしやすいようタイミングなどを考えながら、道具を設置しようとする。(生活)
C	・簡単な文を、ひらがなやカタカナで表すことができる。 ・お店のルールや、ゲームの手順については大まかに理解している。	・分かりやすいように伝える順序などを考え、ゲームの手順を簡単な文章で表す。(国語)

D	<ul style="list-style-type: none"> ・文字を書いたり、絵を描いたりすることが好きである。すもう人形の絵を描くことにも、意欲的に取り組んだ。 ・視覚認知や両手協調動作の困難さがあり、道具の操作が難しいことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お客さんの視点から作りたい表示を思いついたり、思いに合った色や材料を選んだりする。 (図工) <u>自立</u>・太い線を意識しながら、線に沿って切ることができるようにはさみの操作を調整する。 (環・身)
E	<ul style="list-style-type: none"> ・好きなトランポリンの活動では、繰り返しの途中で、写真カード等を手掛かりにしながら、自分で準備をしたり、担任にサインを出して一緒に跳んだりすることができつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お店担当の一連の流れ（チケットをもらう→タイマーをセットする→一緒に跳ぶ→メダルを渡す）に教師と一緒に取り組もうとする。 (生活)

(3) 展開 (別紙)

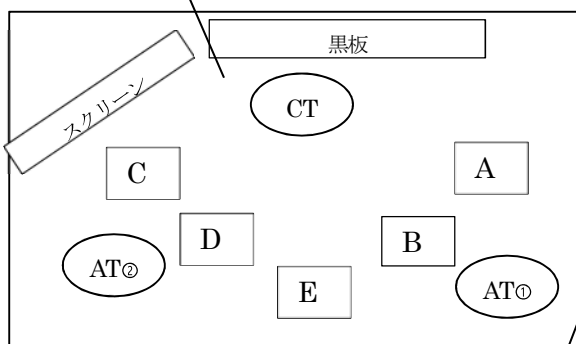
(4) 評価

- ① 各教科等の評価
 - ・本時の目標が達成できたか。
- ② 自立活動の評価
 - ・本時の目標が達成できたか。
 - ・目標の達成に向けてどのような変容があったか。

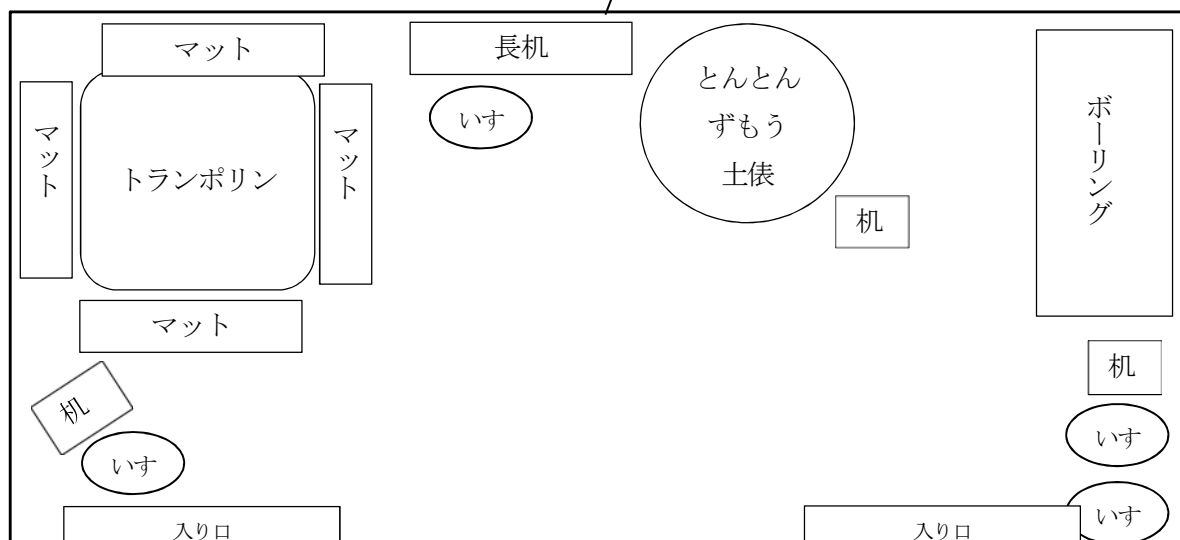
(5) 配置図

★ 活動の場の設置、児童生徒や教員の位置について、必要に応じて記入する。

〇〇教室



〇〇〇教室



(3) 展開

③⑩文末は児童生徒が主体となる視点で記述する。
「～させる。」という表現は避ける。

③⑪児童生徒の予想される反応に対する支援を記述する。
★児童生徒によって支援が異なる場合は、欄を分けて記入する。

時	学習活動	教師の支援 (・) と評価 (★)					準備物
		A	B	C	D	E	
10分	○あいさつをする。(進行はAが行う。) ○今日の流れを確認する。 ・ワークシートに今日のめあてを書き込む。	・今日の流れが分かりやすいよう、掲示とワークシートを準備する。 ・進行表を用意し、いつでも活用できるようにする。					掲示
30分	○各グループでお店の準備をする。 【ボーリング屋さん (A・B)】 ・お店担当の練習をする。 A: ボーリングの説明係 B: 道具係 【とんとんずもう屋さん (C・D)】 ・お店の説明 (C) と看板 (D) を作る。 【トランポリン屋さん (E)】 ・お店の準備をする。 ・お店の練習をする。 (チケットをもらう→タイマーをセットする→一緒に跳ぶ→メダルを渡す)	・本番を意識してできるよう、お客さん役になる。(AT①) ・意欲につながるよう、よかったところをしっかりと伝える。 ・必要に応じて、せりふカードを活用するよう、言葉がけをする。(AT①) ・必要に応じて、友達の様子に目が向くような言葉がけをする。 ★考えたことを友達にアドバイスしたり、友達の意見を求めたりしながら準備しようとしている。 ★せりふカードを使い、お客さん役の教師の様子に合わせて伝わりやすい声の大きさでお店の説明をしている。 【行動観察・ワークシート】	・やりにくいと感じたところを大きなアクションで伝えるようにする。(AT①)	・適宜CTがお客さん役になり、分かりにくかったところを伝えるようにする。	・公民館まつりで撮った写真や動画を参考にすることができるように、用意しておく。 ・お互いの作ったものを見合いながら作るよう言葉がけをする。 ・友達作品を参考にしやすいよう、見やすい位置に掲示しておく。 ・必要に応じて、大きさの目安を書き示すようにする。	・気持ちが向きにくいときには、違う場所でクールダウンし、落ち着いてから活動に向かえるようにする。(AT②) ・より当日をイメージしやすいよう、他学級の教員にお客さん役になってもらう。 ・必要に応じて教師から写真カードを提示する。(AT②) ★お店担当の一連の流れに教師と一緒に取り組もうとする。 【行動観察】	ワークシート タブレット お店で必要な道具 画用紙 ペン テープ
10分	○片付けをする。	・各グループで協力して片付けをすること、片付けが終わったら他のグループの手伝いもすることを言葉がけする。			・片付ける場所が分かりやすいよう、目印をつける。	テレビ	
10分	○振り返りをする。 ・ビデオを見て、自分や友達のがんばっていたところについて話す。 ・ワークシートに振り返りを書く。 ○あいさつをする。	・CTはそれぞれのグループの様子を動画に撮っておき、児童全員で共有できるようにする。 ・動画を見て出てきた気づきに対して、CTが言語化したり称賛したりして、それぞれの自己評価へつなげることができるようにする。 ・自分のめあてにそって振り返ることができるよう、声かけをする。					

③④それぞれの評価規準と評価方法を記述する。

★お客さん役の教師がボーリングをしやすいようタイミングなどを考えながら、道具を設置しようとしている。【行動観察・ワークシート】

★わかりやすいように伝える順序などを考え、ゲームの手順を簡単な文章で表そうとする。【行動観察・作品・ワークシート】

★お客さんの視点から作りたい表示を思いついたり、思いに合った色や材料を選んだりする。【行動観察・作品・ワークシート】
★太い線を意識しながら、線に沿って切ることができるよう、はさみの操作を調整している。【行動観察・作品】

学習指導案の見方・記入のポイントチェックリスト

項目	内 容	チェック欄	
単元(題材)名	①学習のねらいや内容が一目でわかるように明記されている。		
	②「単元名」が教科、領域に応じた表記になっている。		
	③「単元名」等と「教材名」が混同されていない。		
単元(題材)目標	④学習指導要領や各教科等の学習指導要領解説を参考に、本単元で身に付けさせたい資質・能力が明確にされている。		
	⑤学習を通してめざす児童生徒の姿が簡潔に記述されている。		
	⑥複数の目標がある場合、主語(視点)が混在していない。		
単元(題材)の 評価規準	⑦自校の指導計画に基づき、単元ごとに各観点に即して「概ね満足できる」状況が設定されている。		
	⑧各観点の評価規準が、単元目標を踏まえて具体的に設定されている。		
	⑨文末が「～しようとしている。」や「～している。」等の児童生徒の状態を示す表記になっている。		
教材観	⑩学習指導要領に示された目標や内容との関連が記述してある。		
	⑪児童生徒の資質・能力を育成するために単元や教材のもつ教育的意義や他教科・領域、実生活等との関連が述べてある。		
児童・生徒観	⑫単元に関わって児童生徒がどのような実態(レディネス)であるのかが記述してある。		
	⑬単元に関わるこれまでの学習履歴の状況が記述してある。		
	⑭学習に対する学級集団の特徴について記述してある。		
	⑮小・中学校においては、全国学力・学習状況調査や県学力調査から見られる課題等について必要に応じて記述してある。		
指導観	⑯教材教具、学習形態、学習過程、教師の支援のポイントなどについて、指導者の意図的な活動が記述してある。		
	⑰単元全体の指導に合わせ、本時の指導が具体的に記述してある。		
単元(題材)の 指導と評価の計画	⑱目標や学習活動は学習指導要領の該当箇所を根拠に具体的に示されている。		
	⑲単元目標を達成するための学習活動の流れに具体性と必然性がある。		
	⑳単元目標や本時の目標をそのまま当てはめた表現ではなく、児童生徒が実際に行う学習活動を具体化した表現(「どのようなこと」を「どのようにして行うか」)で記述されている。		
	㉑評価規準は、児童生徒が目標を達成した具体的な姿を設定している。		
	㉒評価の観点を1つ程度としている。		
	㉓評価方法が、(発言)(ノート)等として具体的に見取ることができるもので明記されている。		
本時の目標	㉔単元指導計画と整合性が取れている。		
	㉕目標が2つ以上あるときは資質・能力別に記述してある。		
本時の展開	児童生徒の学習活動の欄	⑳見通し・振り返りが設定されている。	
		㉗主な発問を設定し、それに対する児童生徒の予想される反応が記述してある。	
		㉘各学習活動にかかる時間が記してある。	
		㉙文末は、児童生徒が主語になり「～について考える。」「～について話し合う。」などの表現になっている。	
	教師の支援動きや関わり方の欄	㉚児童生徒の予想される反応に対する支援が記述してある。	
		㉛「努力を要する」状況から「概ね満足できる」状況にするための支援が記述してある。	
		㉜教材や資料の使用場面や使用方法が記述してある。	
		㉝評価規準と評価方法が記述してある。	
		㉞評価規準は、本時の目標と整合性が取れている。	
		㉟文末は教師の立場で記述し、「～を知らせる。」「～するようにする。」などの表現になっている。	
本時の評価	㊱単元指導計画の評価規準の内容と整合性がとれている。		
	㊲評価基準が具体的に記述してある。		
	㊳「概ね満足できると判断される状況」については、「十分満足できると判断される状況」にするための手立てが記述してある。		

生活単元学習指導案の見方・記入のポイントチェックリスト

項目	内 容	チェック欄	
単元名	①学習のねらいや内容が一目でわかるように明記されている。		
	②実際の生活や学習に関連した、児童生徒にとって分かりやすい単元名が設定されている。		
単元目標	③学校教育目標とのつながりを考慮し、生活単元学習としてめざしたい姿として記述してある。		
	④単元全体を通してめざす児童生徒の姿が簡潔に記述されている。		
	⑤複数の目標がある場合、主語(視点)が混在していない。		
単元の評価規準	⑥単元で目標として取り扱う各教科等の学習集団としての各観点の評価規準が、単元目標を踏まえて具体的に設定されている。		
	⑦文末が「～しようとしている。」や「～している。」等の児童生徒の状態を示す表記になっている。		
	⑧学習指導要領に示された資質・能力を踏まえて、単元の活動に応じた表現で記述してある。		
児童・生徒観	⑨単元の目標や内容にかかわる児童生徒の実態が記述してある。		
	⑩単元に関わるこれまでの学習履歴の状況が記述してある。		
	⑪学習に対するの学級集団の特徴について記述してある。		
教材観	⑫児童生徒の資質・能力を育成するためにとって単元や教材のもつ教育的意義や他教科・領域、実生活等との関連が述べてある。		
	⑬学習指導要領に示された各教科等の目標や内容との関連が記述してある		
指導観	⑭児童生徒の実態に応じて目標を達成するための支援、教材教具、学習形態、学習過程など、指導者の意図的な活動が記述してある。		
	⑮単元全体の指導に合わせ、本時の指導が具体的に記述してある。		
単元(題材)の 指導と評価の計画	⑯評価の計画は学習指導要領の該当箇所を根拠に具体的に示されている。		
	⑰単元目標を達成するための学習活動の流れに具体性と必然性がある。		
	⑱単元目標や本時の目標をそのまま当てはめた表現ではなく、児童生徒が実際に行う学習活動を具体化した表現で記述されている。		
	⑲各教科等の評価の観点を、各時1～2つ程度に焦点化して記述してある。		
	⑳目標として取り扱う自立活動について、児童生徒名と区分が記述してある。		
	㉑幅広い実態の児童生徒が在籍する場合は、一部の児童生徒にかかわる教科等や観点についても記述してある。		
本時の目標	㉒単元指導計画と整合性が取れている。		
	㉓「2 単元の目標」から、生活単元学習でめざしたい姿としての視点で記述してある。		
個別の目標	㉔本時の目標に関係する個々の実態が記述してある。		
	㉕単元の評価規準と照らし合わせ、教科等を目標が観点ごとに記述してある。		
	㉖個別の目標は、本時でめざす姿ができるだけ具体的な児童生徒の姿で記述してある。		
本時の展開	学習活動	㉗見通し・振り返りが設定されている。	
		㉘各学習活動にかかる時間が記してある。	
		㉙文末は、児童生徒が主語になり「～について考える。」「～について話し合う。」などの表現になっている。	
	教師の支援と評価	㉚児童生徒の予想される反応に対する支援が記述してある。	
		㉛児童生徒によって支援が異なる場合は、欄を分けて記述してある。	
		㉜教材や資料の使用場面等が記述してある。	
		㉝評価規準と評価方法が記述してある。	
		㉞評価規準は、本時の目標と整合性が取れている。	
		㉟文末は教師の立場で記述し、「～を知らせる。」「～するようにする。」などの表現になっている。	
		㊱	
本時の評価	㊲自立活動の目標がある場合は、自立活動の評価についても記述してある。		

おわりに

授業づくりの研修はどうでしたか。

「本時のねらいが明確な授業」「児童生徒を主体とした授業」について、新しい発見がありましたか。

知識量を重視する授業づくりと今回のテーマの授業づくりの違いを感じたのではないのでしょうか。

子どもたちが資質・能力を身に付け、たくましく、豊かに歩んでくれることを願って、「本時のねらいが明確な授業」「児童生徒を主体とした授業」をこれからも意識していきましょう。

島根県公立学校教育職員人材育成基本方針（平成 30 年 2 月）

[自立・向上期]（1～5年目）における育成指標

1 豊かな人間性と 職務に対する使命感

- ① 人間理解・人権意識
 - ・生命尊重・人権尊重の精神と、多様な価値観を尊重する態度を有している。
- ② 職務に対する誇りと責任
 - ・教育職員として必要な倫理観、職務に対する使命感・責任感、学び続ける意欲を有している。
- ③ ふるさとを愛する心
 - ・地域の自然・歴史・文化・伝統を理解し尊重する態度、ふるさとを愛する人材育成への意欲を有している。

2 子どもの発達の支援に対する理解と対応

- ④ 子ども理解・子ども支援
 - ・子どもとのふれあいや観察を通して、様々な行動の内に潜む微妙な心の動き、キャリア発達を理解し、学級等の集団づくりを進めることができる。
- ⑤ 特別支援教育の推進
 - ・特別な支援の必要な子どもの実態把握を行い、一人一人のニーズに応じた指導や支援についての計画を立て、実践することができる。

3 職務にかかわる専門的知識・技能及び態度

- ⑥ 教科等の指導に関する専門性
 - ・教科等を学ぶ意義を踏まえて指導計画を作成し、教科等の指導を実践することができる。
- ⑦ 社会の変化への対応
 - ・新たな学びや教育課題に対して、適切な対応の仕方を具体的に考え取り組むことができる。

4 学校組織の一員として考え行動する意欲・能力

- ⑧ 学校組織マネジメント
 - ・学校教育目標に沿った自己目標を立て、その達成に向けて取り組むことができる。
- ⑨ 他者との連携・協働
 - ・経験豊かな職員からの助言を受け入れ、自らの役割に応じて行動することができる。

5 よりよい社会をつくるための意欲・能力

- ⑩ 地域資源の活用と地域貢献
 - ・子どもと地域社会をつなごうとする意欲を持ち、地域と連携した学校教育活動を計画に基づいて実践することができる。
- ⑪ 合意形成に向けた議論の調整・促進
 - ・子ども同士が協働し、探究していく活動を円滑に実践することができる。

フォローアップ研修（2年目）での「授業づくり」のねらいは、次のとおりです。

授業づくりにかかる自己課題に基づいた研究主題を設定し、その解決に向けて主体的に取り組む態度と実践力を身に付ける。

次の段階に向かって、学び続けていきましょう。

【授業づくり参考資料】

・しまねの教育情報 Web



<http://eio-shimane.jp/>



研究大会の学習指導案など、授業づくりの参考になる様々な情報を入手できます。

- 令和4年度各教科等の指導の重点
- 新学習指導要領の実施に向けて（リーフレット）「明日を担う島根の子どもたちのために」（平成30年4月）
- 令和4年度版授業チェックリスト（令和4年4月）
→いずれも「しまねの教育情報 Web E I O S」からダウンロードできます。

・学習指導の基本を身に付けよう 授業づくり Q&A ～「よい授業」を目指して～
（平成23年3月）

https://www.pref.shimane.lg.jp/education/kyoiku/kikan/hamada_ec/kenkyu/kiyou_houkoku/jyugyou.html



・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校、中学校）
（令和2年3月）

・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（高等学校）
（令和3年8月）

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryuu.html>



・学習評価を生かした授業改善，授業づくりのためのハンドブック【小学校】
（平成23年3月）

https://www.pref.shimane.lg.jp/kyoikusido/index.data/handbook_syou.pdf



・学習評価を生かした授業改善，授業づくりのためのハンドブック【中学校】
（平成23年3月）

https://www.pref.shimane.lg.jp/kyoikusido/H24tyuu_handbook.html

